Panasonic®

取扱説明書
電動アシスト自転車

品番 BE-ENW072

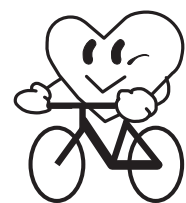
修理・取扱い・手入れなどは まず、お買い上げの販売店へ ご相談ください。

転居や贈答品でお困りの場合は、下記窓口にご相談ください。

東北地区	(022) 382-7791	東京・神奈川・千葉地区	(042) 490-5545
埼玉・群馬・新潟地区	(048) 723-5131	栃木・茨城地区	(0286) 52-5046
中部(新潟除く)・東海地区	(0587) 54-4111	近畿地区	(072) 975-4100
中国・四国地区	(082) 870-7776	九州・沖縄地区	(092) 671-8648

※受付時間　平日(土・日・祝日および年末年始等の連休を除く) 9:00 ～ 17:00
※上記の相談窓口が通じない場合や、北海道・北陸地区のお客様は、当社お客様相談室(下記) におかけください。

パナソニック サイクルテック株式会社お客様相談室
Tel　:　(072) 977-1603
受付時間　9:00 ～ 20:00

愛情点検　定期点検をし、安全走行をしましょう!

こんな症状はありませんか	●異常な音がする ●がたつきやゆるみ ●車輪の振れ ●ブレーキの効きが悪い	▶	ご使用中止	事故防止のため、必ず販売店に点検、整備を依頼してください。

便利メモ (おぼえのため、記入されると便利です。)

販売店名	
お買い上げ日	年　月　日
電話	(　)　ー
品番	
車体番号	
キー番号	
防犯登録番号	

【ご相談におけるお客様に関する情報のお取り扱いについて】

パナソニック サイクルテック株式会社および関係会社 (以下「当社」) は、お客様の個人情報をパナソニック製品に関するご相談対応や修理サービスなどに利用させていただきます。併せて、お問い合わせ内容を正確に把握するため、ご相談内容を録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくときのために発信番号を通知いただいておりますので、ご了承願います。当社は、お客様の個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に個人情報を開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

パナソニック サイクルテック株式会社
〒582-8501　大阪府柏原市片山町 13 番 13 号

NYT1171 G0610-0

※イラストは、イメージ図を使用しています。形状やデザインが、お買い上げいただいた自転車と異なる場合があります。

保証書別添付

自転車のルールを守って、安全走行
●止まって確認、らくらく発進
●ライトをつけて、らくらく走行

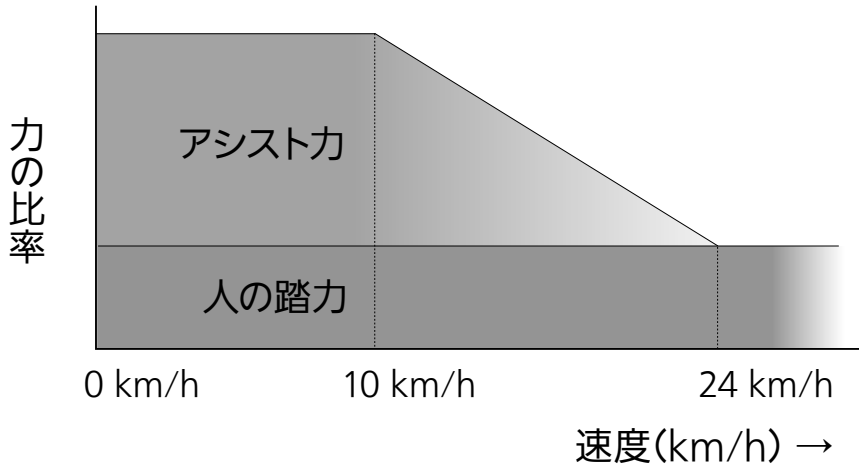
このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
- ●取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- ●ご使用前に「**安全上のご注意**」**(4 ～ 11 ページ)を必ずお読みください。**
- ●保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。
- ●製品を他の人に譲渡される場合は、この取扱説明書を一緒にお渡しください。
- ●お子様がお使いになる場合は、保護者の方がこの取扱説明書を必ずお読みいただき、正しい乗りかたをご指導ください。

お願い
- ●この自転車は、散歩、買い物などの日常生活用として設計されています。新聞配達など、業務用としてご使用にならないでください。
- ●安全のため、ヘルメットの着用をお勧めします。
- ●万が一の事故に備え、対人・対物賠償保険に加入されることをお勧めします。
- ●必ず、販売店で防犯登録の申請手続きを行ってください。(法令で義務付けられています。)

お買い求めいただいた自転車は、電動補助(アシスト) システムが付いた自転車です。
電動アシスト自転車は、普通の自転車と異なった部分があります。
この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく、安全、快適にお乗りください。

◆お買い求めいただいた電動アシスト自転車の特長

①免許証が不要です。
電動アシスト自転車は、運転免許証無しで乗ることができます。

②アシスト力の働きで楽に乗れます。
ペダルを一定以上の力で踏むとアシスト力が働き、自転車よりも軽い踏力で走行できます。
改正された道路交通法施行規則(2008 年) に適合した新基準対応モデルです。
☆下のグラフは「人の踏力」と「電動のアシスト力」との関係をイメージで表しています。
・アシスト力とアシストが働く速度範囲は、アシストモード、変速位置により変化します。
・乗る人の踏力、道路の状況、乗員と積載荷物を含む総質量の条件により楽になる度合に差が生じます。
・アシスト率(人の踏力と電動のアシスト力との比率) は約 10 km/h から徐々に下がっていきますが、バッテリー(電池) の電力消費は 20 km/h 付近で最大となります。
・お買い求めいただいた電動アシスト自転車のアシスト力の変化は 36 ページをご覧ください。

③バッテリーが切れても、普通の自転車として走行できます。
夜間ライトがつかないときは、押して歩いてください。無灯火での夜間乗車は、法令違反になります。

④アシストモード切替機能が付いています。
バックライト付き手元スイッチのボタン操作で、平地の低アシスト走行から急坂でのパワフル走行まで自動制御する「オートマチック」が選べます。

⑤リチウムイオンバッテリーを使用しています。
メモリー効果※の心配がなく、軽量で安全性に優れたリチウムイオンバッテリーを搭載しています。
※メモリー効果とは、継ぎ足し充電を何度も繰り返すことで見かけ上のバッテリーの性能が低下する状態のことです。

⑥工具不要で折りたたみが可能です。
工具不要で簡単に折りたため、車などに積むことができます。

お知らせ
●次のようなときはアシスト力は働きません。
・時速が 24 km/h 以上のとき。
・ペダルを踏む力が弱いとき、または、ペダルの回転を止めているとき。
・バッテリーの残量がなくなったとき。
・オートオフシステムが働いたとき。(電源が入った状態で 10 分以上ペダルを踏まなかったとき、自動的に電源が切れます。再度走行するときは、電源を入れてください。)

もくじ

はじめに

充電のしかた

乗るまえに

乗りかた

乗ったあと

必要なとき

安全上のご注意(1) 必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

⚠危険	「死亡や重傷を負うおそれが大きい内容」です。
⚠警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
⚠注意	「傷害を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。(次は図記号の例です)

	してはいけない内容です。
	実行しなければならない内容です。
	気をつけていただく内容です。

⚠警告

本体

■サドルは「はめ合せ限界標識」が見える状態で乗らない

シートポストの折れにより、転倒や衝突によるけがのおそれがあります。

■改造や分解、また指定以外の注油はしない

分解禁止 注油禁止

部品の破損や、ブレーキが効かなくなって転倒や衝突によるけがのおそれがあります。

■ハブステップなどの突出物を装着しない

歩行者などに危害をおよぼすおそれがあります。

■調整後の締め付けを確認せずに乗らない(車輪の脱着やサドル・バッテリーライトなど)

車輪などが外れて、転倒によるけがのおそれがあります。

※バッテリー本体にも表示しています。

⚠危険

バッテリー

■当社電動アシスト自転車専用の回生充電対応バッテリーですこの機器以外に使用しない

■専用充電器を使用してください

■火への投入、加熱をしない

発熱、発火、破裂の原因となります。

■クギで刺したり、衝撃を与えたり、分解・改造をしない

■(+)と(−)を金属などで接触させない ネックレス、ヘアピンなどと一緒に持ち運んだり保管しない

■火のそばなど高温の場所で充電・使用・放置をしない

発熱、発火、破裂の原因となります。

⚠警告

■水を入れたり、水中に投下しない

端子部から水を入れるとショートして、発熱、発火破裂の原因となります。

●バッテリー内部に明らかに水が浸入したと思われる場合は使用を停止し、販売店で点検をうけてください。

■傷ついたまま使用しない

ケースなど、破損したまま使用すると液漏れのおそれがあり、目に入った場合失明するおそれがあります。

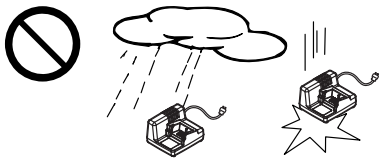
■大雨等で自転車本体(バッテリー部)が水に浸かった場合、使用しない

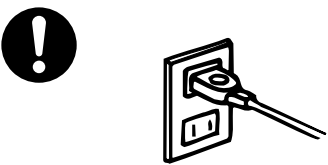
不意にアシストが停止する場合があり、バランスを崩し、転倒によるけがのおそれがあります。

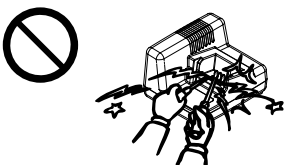
●本自転車は生活防水性能を備えていますが、大雨等によりバッテリー内部に水が入った場合は使用を停止し、販売店で点検をうけてください。

⚠警告

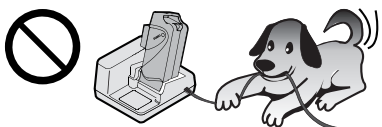
充電器

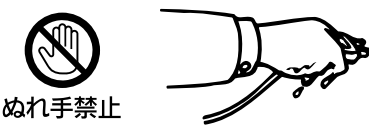
■衝撃を与えたり、落下や水濡れ、高湿度な場所での使用はしない

発熱、発火、感電のおそれがあります。

■電源プラグは根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

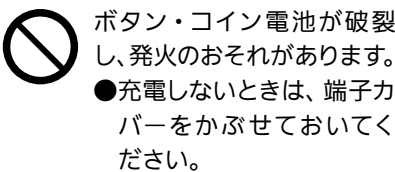
■充電端子を金属でショートさせない

発熱、発火、感電のおそれがあります。

●充電しないときは、端子カバーをかぶせておいてください。

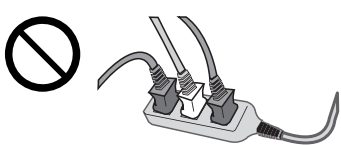
■幼児やペットが触れる所に放置しない

感電・故障・火災の原因になります。

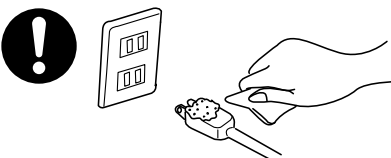
■ぬれた手で電源プラグの抜き差しはしない

ぬれ手禁止

感電のおそれがあります。

■充電端子部にボタン・コイン電池を接触させない

ボタン・コイン電池が破裂し、発火のおそれがあります。

●充電しないときは、端子カバーをかぶせておいてください。

■コンセントや配線器具の定格を超える使い方や、交流100 V以外での使用はしない

たこ足配線等で、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

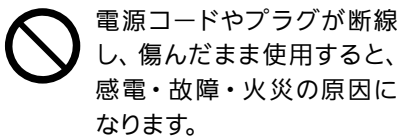
■充電端子や電源プラグのほこり等は定期的にとる

ほこりがたまると、湿気等で絶縁不良となり、火災の原因になります。

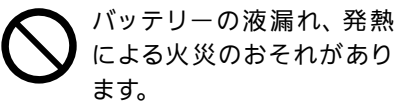
●電源プラグを抜き、乾いた布で拭いてください。

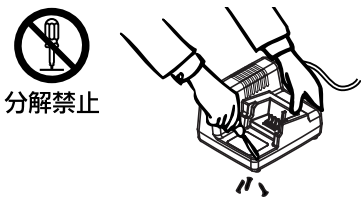
■電源コードや電源プラグ・ケースを破損するようなことはしない(傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたり、束ねたりしない)

傷んだまま使用すると、感電・故障・火災の原因になります。

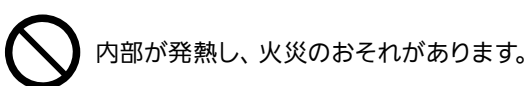
●コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。

■電源コードを充電器本体に巻きつけて保管しない

電源コードやプラグが断線し、傷んだまま使用すると、感電・故障・火災の原因になります。

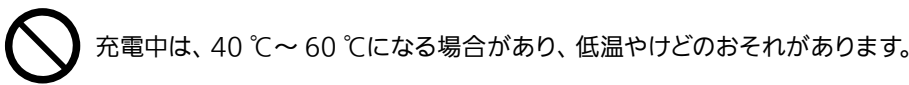
■専用バッテリー以外の充電には、使用しない

バッテリーの液漏れ、発熱による火災のおそれがあります。

■分解や改造はしない

分解禁止

発熱、発火、感電のおそれがあります。

■充電中はカバーをしたり、上に物を置かない

内部が発熱し、火災のおそれがあります。

⚠注意

■充電中は長時間、皮膚の同じ場所で触れない

充電中は、40 ℃～ 60 ℃になる場合があり、低温やけどのおそれがあります。

■電動アシスト自転車を安全に乗るために

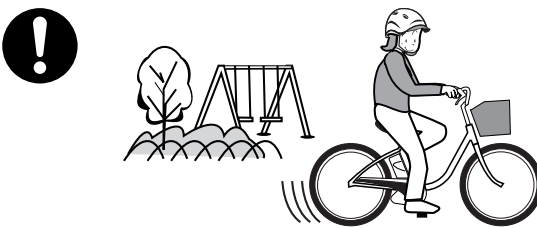
⚠警告

■けんけん乗り(けり乗り) しない

転倒や接触事故によるけがのおそれがあります。

●必ずサドルにまたがって、発進してください。

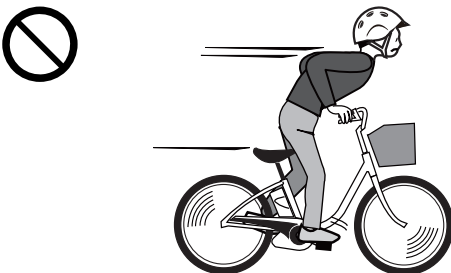
※けんけん乗り(けり乗り) とは、片足でペダルをこぎながら助走し、反動をつけてサドルにまたがる乗り方です。

■電動アシスト自転車になれるまでは、車が通らない平坦な場所(公園や広場等) で十分練習する

転倒や衝突事故によるけがのおそれがあります。

●電動アシスト自転車になれるまでは「エコモード」で走行してください。

■停車中は、前後ブレーキをかけた状態にし、ペダルに足を乗せない

不用意なアシスト力が働き転倒や接触事故によるけがのおそれがあります。

■発進時は、ペダルを強く踏み込まない

思わぬ急発進により転倒や衝突事故によるけがのおそれがあります。

●一般の自転車のように強く踏み込まなくても、楽に発進することができます。

■バッテリーが確実に装着されているか確認する

走行中にバッテリーが脱落し、転倒によるけがのおそれがあります。

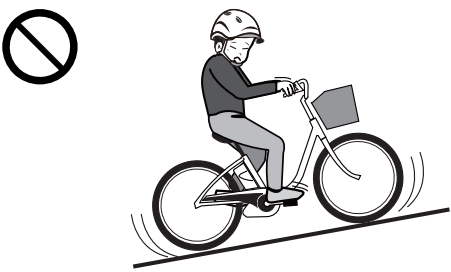
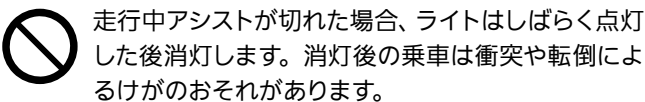
■バッテリー残量が少ない状態(手元スイッチの LED点滅状態) のときには、上り坂で乗車しない

アシストが切れたときに、バランスを崩し、転倒によるけがのおそれがあります。

■走行中、手元スイッチの電源を入り切りしない

■走行中、アシストモードの切替をしない

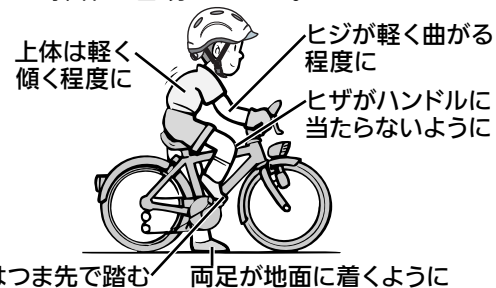
上り坂や発進時、誤操作等でアシストが切れたときに、バランスを崩し、転倒によるけがのおそれがあります。

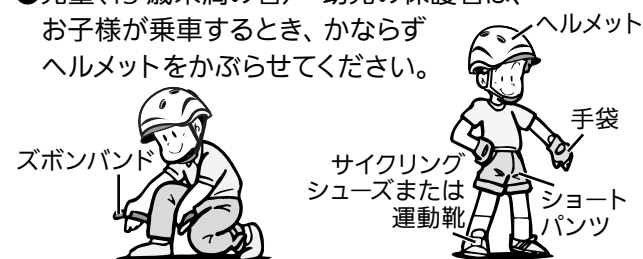
●必ず停止して、電源の入り切りをしてください。

■夜間走行前には必ずバッテリー残量を確認する

走行中アシストが切れた場合、ライトはしばらく点灯した後消灯します。消灯後の乗車は衝突や転倒によるけがのおそれがあります。

●夜間走行中、ライトが点滅状態や消灯状態になった場合、押して歩いてください。点滅状態や無灯火での夜間乗車は、法令違反になります。

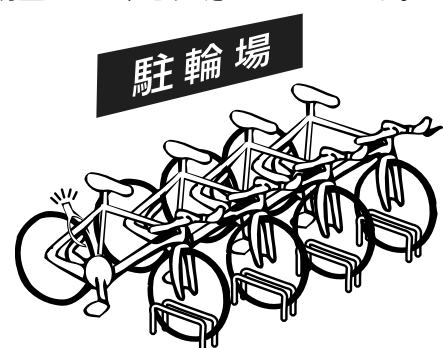
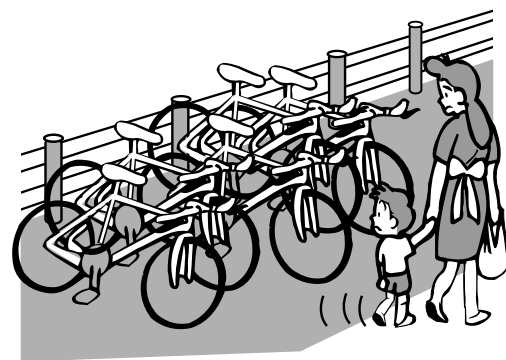
安全上のご注意(3) 必ずお守りください

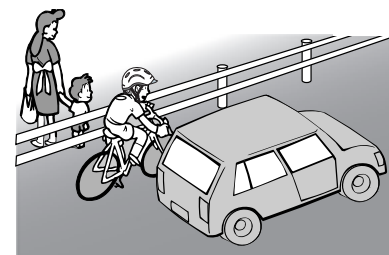
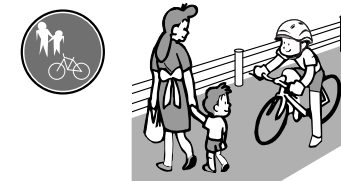
■乗るまえに

まず体に合わせてください
●図のように販売店で調整してもらってください。
●操作して確認してください。
①円滑なペダリングができる。
②ブレーキや変速機が確実に操作できる。
③ハンドル操作が容易にできる。

必ず点検をしてください
●必ず、取扱説明書をよく読んで点検してください。
●わからないときは販売店に相談してください。
●未組立及び未調整の自転車は使用しないでください。

安全な服装で乗ってください
(車輪に巻き込まれやすい服装はしない)
●ズボンの汚れやチェーンへの巻き込み、ギヤへの引っかかり等を防止するために、チェーンやギヤがむき出しの自転車に乗るときは、ズボンの裾をズボンバンドで止めてください。
●児童(13 歳未満の者)・幼児の保護者は、お子様が乗車するとき、かならずヘルメットをかぶらせてください。

乗る練習は必ず行ってください
●練習を空地や公園など安全な場所で、行ってください。
●よく練習してから一般道路でお乗りください。

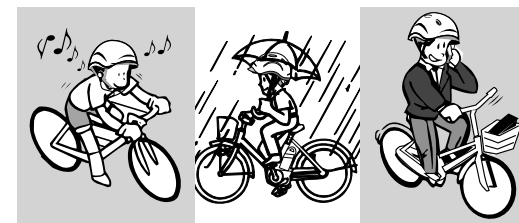
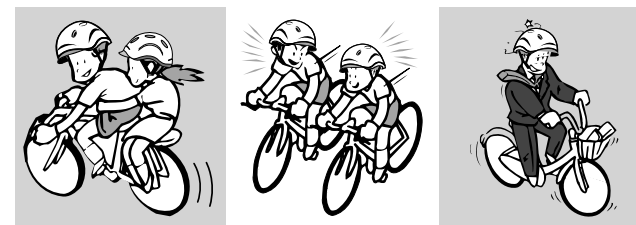
■乗ったあとは

決められた場所に駐輪してください
●駐輪するときは、他の人に迷惑にならないよう、決められた場所にとめましょう。
●盗難防止のため、必ず鍵をかけましょう。

自転車放置禁止
●自転車の放置は、他の人に迷惑をかけるばかりでなく、環境悪化の原因となります。絶対に止めましょう。

■自転車の交通安全ルールを守りましょう
※違反すると、道路交通法の罰則を受けることがあります。

自転車は、車道通行が原則です
●歩道と車道の区別のあるところは自転車は車道の左端に寄って通行しましょう。

次の様な場合は、歩道通行ができます
(その時にも歩道は歩行者優先、車道よりを徐行)
●自転車歩道通行可の標識等で指定されている場合。
●運転者が児童、幼児、70歳以上の場合。
●車道や交通の状況からみてやむを得ない場合。

30 kg を超える荷物を積載しない
●ただし、自転車や取扱説明書等へ積載条件の記載がある場合はそちらを守ってください。

交差点では一時停止と安全確認を
●一時停止の標識を守り、広い道に出る時は、徐行と安全確認を。
●信号機がある場合は、信号を必ず守りましょう。

夜間やトンネル内、視界の悪いときは、ライトを点灯して通行しましょう
●夜の無灯火運転は交通違反です。
●暗いところではライトを点けて通行しましょう。

次の様な運転はしない
●ヘッドフォンを使用しながらの運転。
●傘さし運転。
●携帯電話を操作しながらの運転。

二人乗り、並進、飲酒運転は禁止
● 6歳未満の子供を幼児用座席に一人乗せる場合等を除き、二人乗りは禁止です。(幼児二人同乗用自転車を除く)
●「並進可」標識のある場所以外は並進は禁止です。
●飲酒運転は禁止です。

安全上のご注意(4)

必ずお守りください

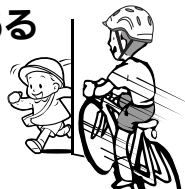
けがをせずに、他の人にも迷惑をかけないために、乗り方や交通ルールを守りましょう。
安全のため、ヘルメットの着用をおすすめします。

交通事故を防ぐために

自動車や子供に注意！
安全を確認し、乗りましょう

車の横を走るときに！

開くドアや人の飛び出しに注意する

学校や公園が近くにあるときに！

子供の飛び出しに注意する

交差点を通るときに！

左折車に巻き込まれないように注意する

転倒事故を防ぐために

こんな時

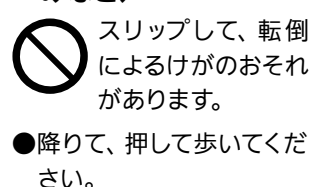
■雨・風・雪のひどいときは乗らない

バランスを崩し、転倒によるけがのおそれがあります。

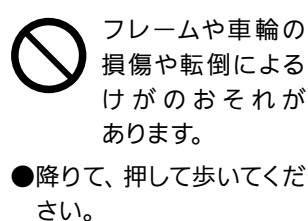
■合図以外は、ハンドルから手を離さない

バランスがとりにくく、転倒によるけがのおそれがあります。

こんな場所

■滑りやすいところでは乗らない(積雪や凍結した道、鉄板やぬかるみなど)

スリップして、転倒によるけがのおそれがあります。

●降りて、押して歩いてください。

■凹凸の激しいところを走らない(歩道の段差や、溝など)

フレームや車輪の損傷や転倒によるけがのおそれがあります。

●降りて、押して歩いてください。

こんな乗り方

■巻き込みやすい物を車輪やギヤに近接させて乗らない(長いスカートやマフラー、傘やペットのひもなど)

車輪やギヤに巻き込まれ、転倒によるけがのおそれがあります。

■かさやステッキ、釣りざお等を車体に差し込んだり、釣り下げたりして乗らない

車輪に巻き込んだり、他の人や物にぶつけて事故や転倒によるけがのおそれがあります。

■土踏まずやかかとでペダルを踏まない

カーブでつま先が前車輪にあたり転倒によるけがのおそれがあります。

■滑りやすい靴や、かかとの高い靴、厚底靴などをはいて乗らない

ペダルから足が外れ、転倒によるけがのおそれがあります。

■手やハンドルに荷物をかけたり、ペットをつながない

荷物やひもが、車輪に巻き込まれたり、バランスを崩し、転倒によるけがのおそれがあります。

■カーブで曲がる側のペダルを下げない

ペダルが地面と接触し、転倒によるけがのおそれがあります。

こんな使い方

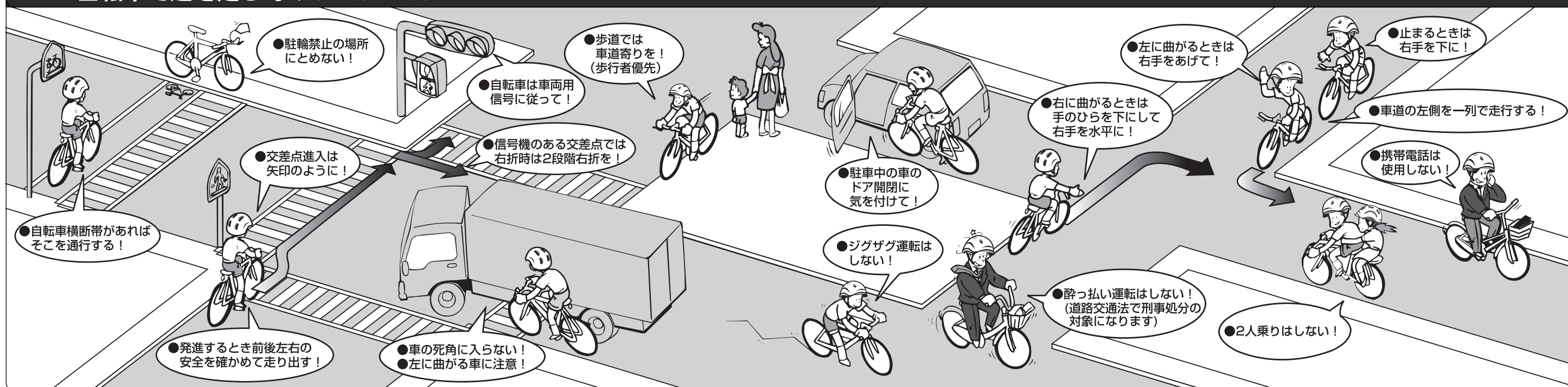
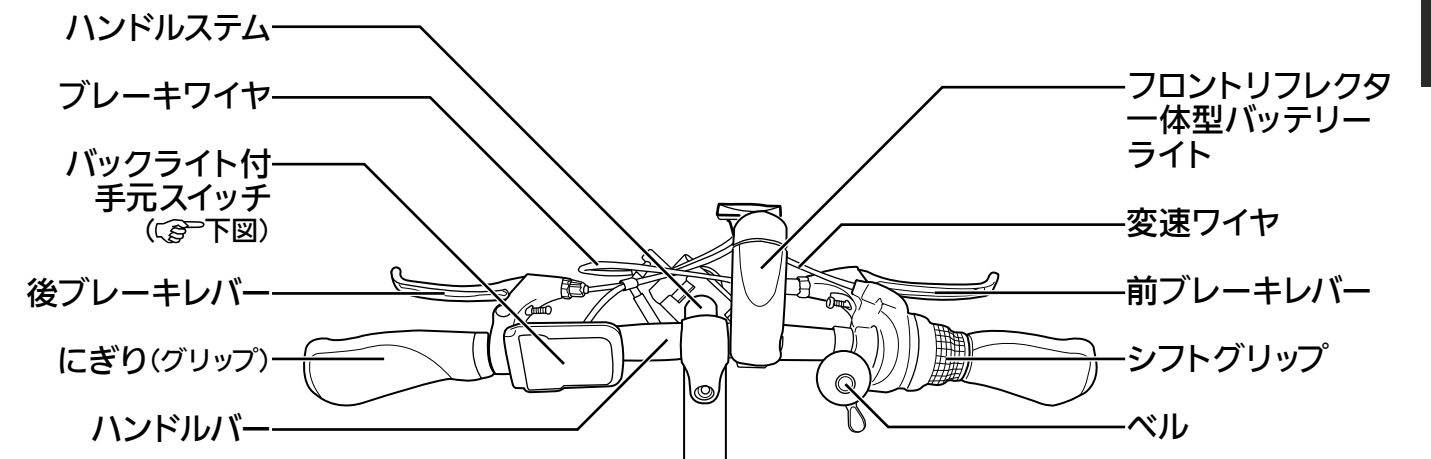
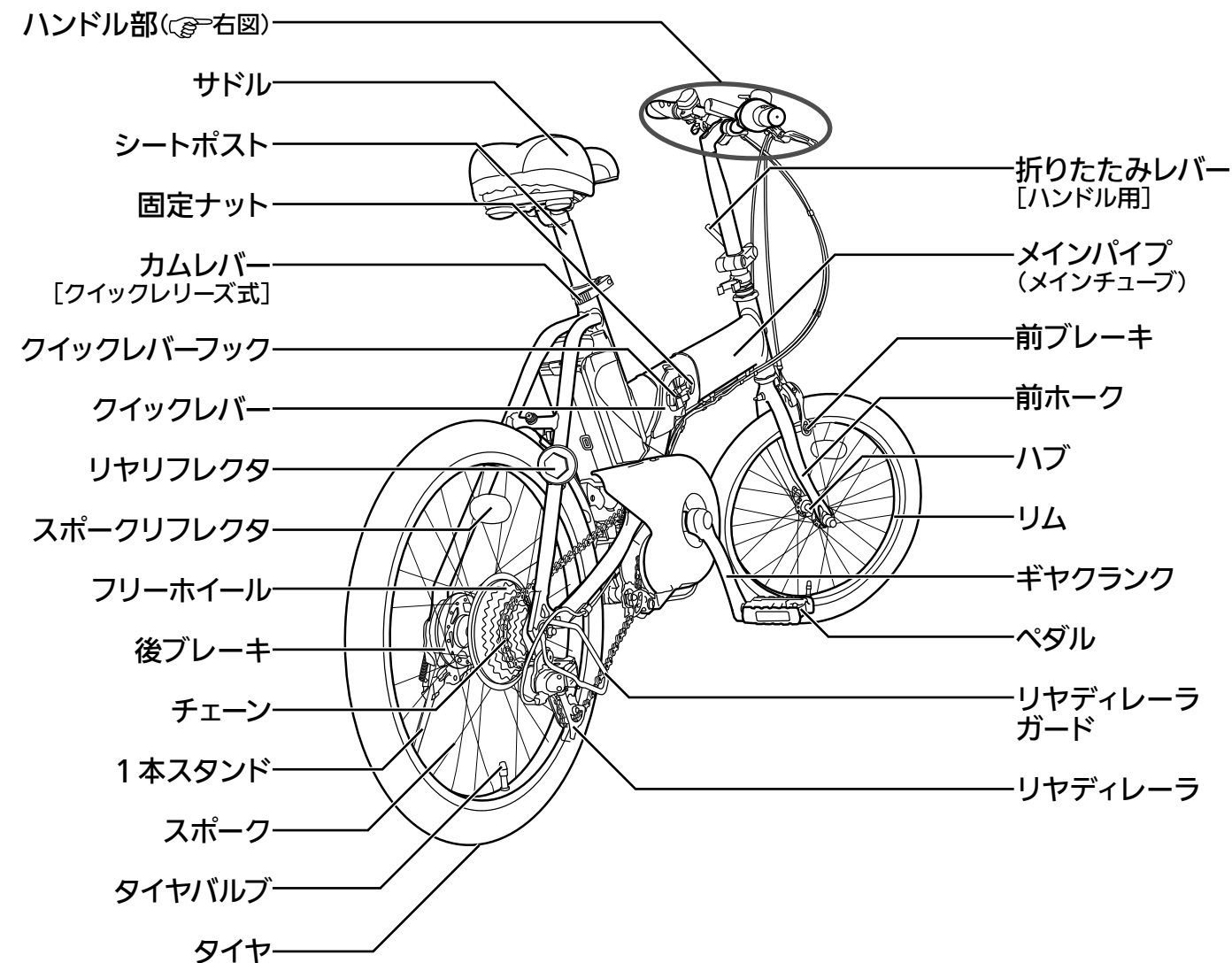
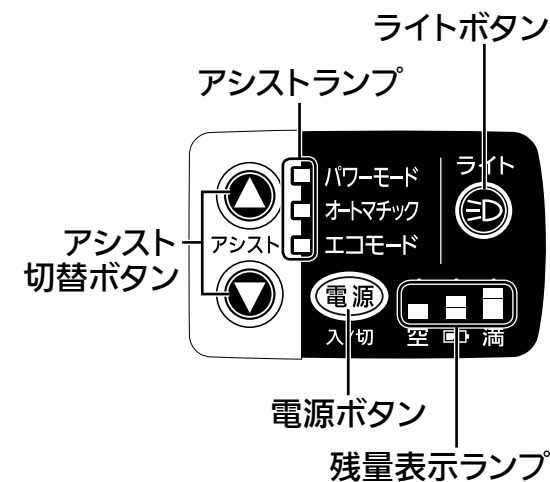
■走行以外に使わない(踏み台代わりなど)

転倒によるけがのおそれがあります。

■スポークの間に固形物(ボールなど)を入れて走らない

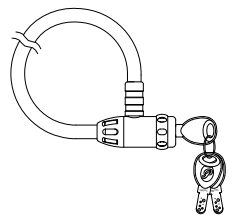
車輪に巻き込まれて転倒によるけがのおそれがあります。

自転車で道を走る時のルール・マナー

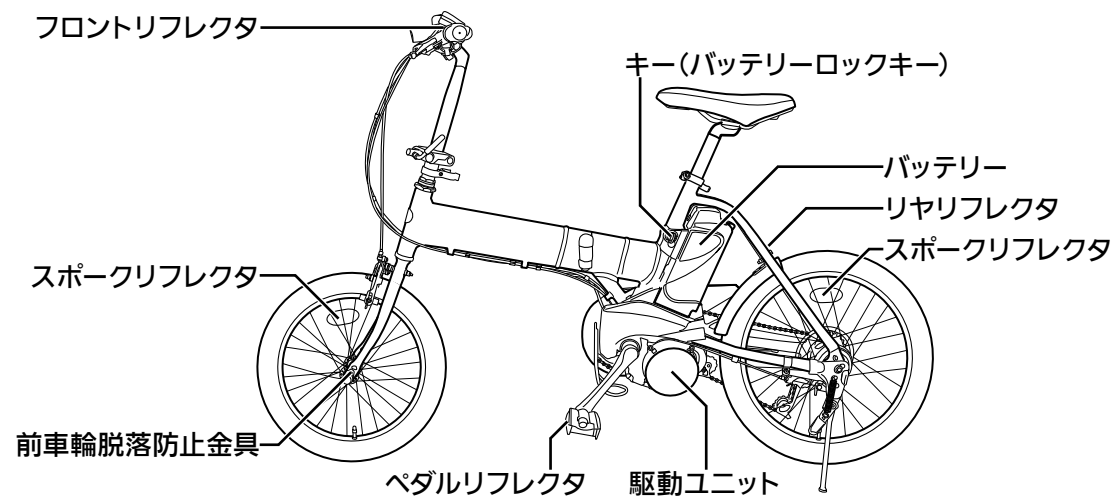
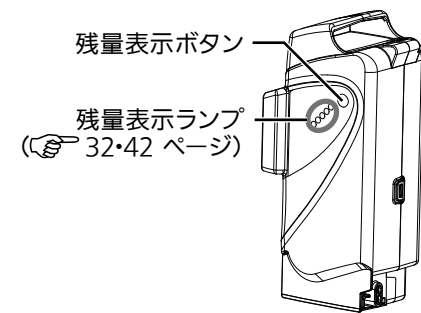
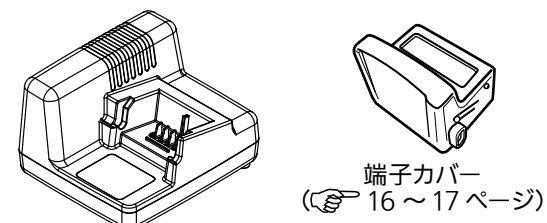
●駐輪禁止の場所にとめない！
●自転車は車両用信号に従って！
●歩道では車道寄りを！(歩行者優先)
●左に曲がるときは右手をあげて！
●止まるときは右手を下に！
●右に曲がるときは手のひらを下にして右手を水平に！
●車道の左側を一列で走行する！
●信号機のある交差点では右折時は2段階右折を！
●交差点進入は矢印のように！
●駐車中の車のドア開閉に気を付けて！
●携帯電話は使用しない！
●自転車横断帯があればそこを通行する！
●ジグザグ運転はしない！
●酔っ払い運転はしない！(道路交通法で刑事処分の対象になります)
●2人乗りはしない！
●発進するとき前後左右の安全を確かめて走り出す！
●車の死角に入らない！
●左に曲がる車に注意！

各部のなまえ(1)

■バックライト付き手元スイッチ

※電源ボタン「入」のとき、バックライトが点灯し、夜間走行時もボタン操作がしやすくなっています。
(以下「手元スイッチ」)

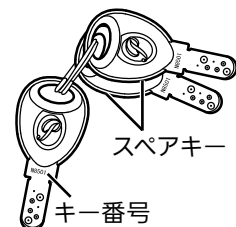
■付属品

自転車本体の他に下記のものがすべて含まれていることをご確認ください。

- ●充電器
- ●端子カバー
- ●取扱説明書／保証書
- ●乗りかたカード
- ●スペアキー(×2)
- ●締付けバンド(×2)
- ●ワイヤ錠

■走行時ワイヤ錠を車輪の近くやハンドルにぶらさげない

スポークに巻き込んだり、ハンドルがとられて転倒によるけがのおそれがあります。

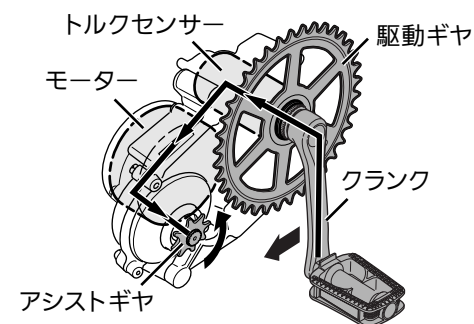
各部のなまえ(2)

■バッテリー

■充電器

●充電のしかた
(☞ 16 ～ 18 ページ)

■キー (バッテリーロック、ワイヤ錠)

お願い

●スペアキーは付属の保管袋に入れて、大切に保管してください。
●キーの番号は、控えておいてください。(保証書のキー番号欄とこの説明書の裏面の記入欄に記入できます。) キーを紛失されても、番号がわかればスペアキーをお求めいただけます。販売店にご注文ください。

お知らせ

●ワイヤ錠のみ交換された場合は、キーが 2 種類になります。

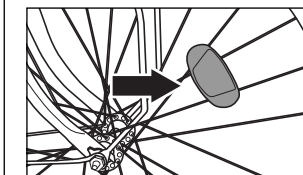
■駆動ユニット

ペダルの踏力を、クランクを通じてトルクセンサーで感知し、最適なアシスト力をモーターからアシストギヤへ伝えることにより、快適なアシスト走行を実現しています。

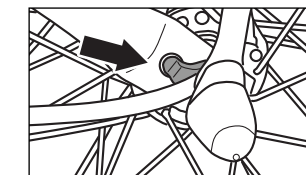
警告

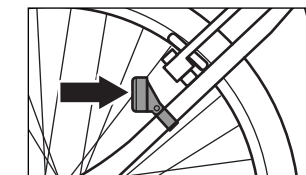
■安全装置は取り外さない

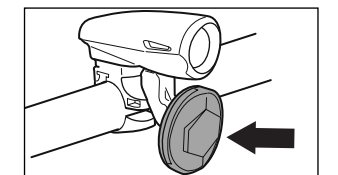
外したまま使用すると、事故発生によるけがのおそれがあります。

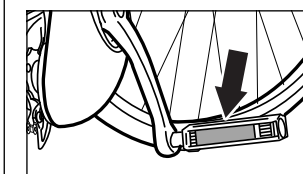
■安全装置

スポークリフレクタ

横からの光を反射します

前車輪脱落防止金具

前車輪の脱落を防止します

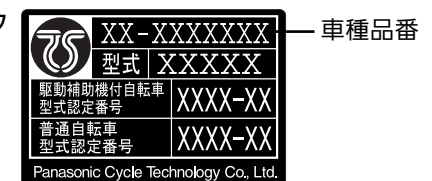
リヤリフレクタ(後部反射器)

後からの光を反射します

フロントリフレクタ(前部反射器)

前からの光を反射します

ペダルリフレクタ

前後からの光を反射します

※リフレクタが破損した場合は、直ちに新品と交換してください。
(リヤリフレクタが破損したままでの夜間乗車は法令違反になります。)

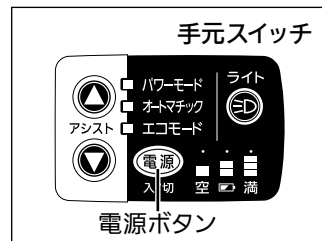
■品番および型式認定済 TS マーク(保険なし)

●この型式認定済 TS マークは、国家公安委員会の型式認定を取得した製品にのみ表示する事ができるもので、安心して自転車としてご利用頂ける証明です。
●右上の英数字は車種品番、左上のTSは型式認定済TSマークを表しています。
●このマークには、交通傷害保険は付帯していません。保険付き TS マークの貼付については 47 ページを参照ください。

■車体番号(刻印位置)

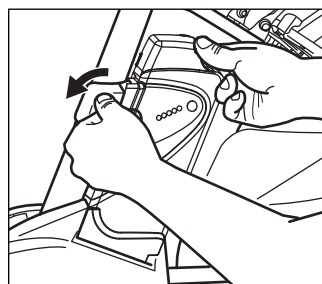
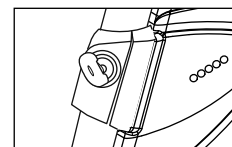
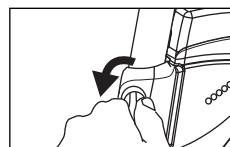
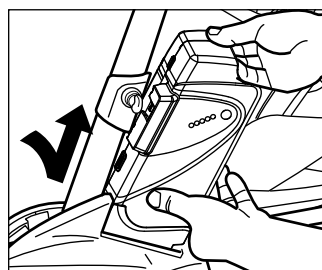
防犯登録に必要で、9 文字(数字と英字) で表示しています。
※マークをはがしたり、傷つけたりしないでください。

充電しましょう(1)

バッテリーは酷暑、酷寒、衝撃を避けるのが上手な使い方です。

1. 手元スイッチの電源を切る

手元スイッチの電源ボタンを押して電源を切る。(全ランプ消灯)

電源を切らないでバッテリーを外すと故障の原因になります。

2. バッテリーロックを外し、バッテリーを引き上げる

バッテリーを支え、バッテリーロックキーを反時計方向に 60 度回す。
(開錠状態のままキーを固定できます。)
バッテリーをゆっくり手前に倒す。

開錠状態のまま固定が可能
(この状態ではキーは抜けません)

両手で支えながら引き上げて外す。バッテリーロックキーを時計方向に 60 度戻しキーを抜く。

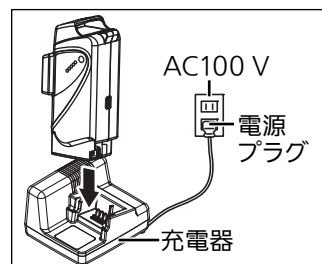
注意

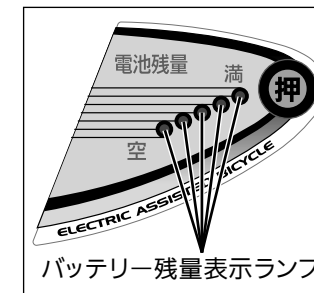
■**バッテリーを支えてからバッテリーロックキーをまわす**

落下し、けがをするおそれがあります。

お願い

- バッテリーを取り外した後、バッテリーロックキーを抜き、保管してください。
- 長期間、バッテリーを取り外したままにするときは、汚れやほこりがつかないように、付属の端子カバーを装着してください。

3. バッテリーを充電器にセットする

電源プラグをコンセント(AC100 V)に差込み、バッテリーを充電器に奥まで押し込む。

4. 残量表示ランプを確認する

バッテリーの残量表示ランプの点灯(赤色)を確認する。
(充電状態に応じた表示になります。)

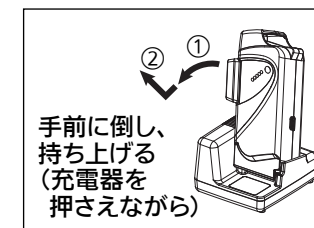
残量表示ランプ点灯・点滅(充電中) → 残量表示ランプ消灯(充電完了)

●**充電時間の目安**(気温 20 ℃)

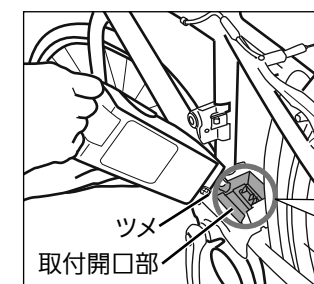
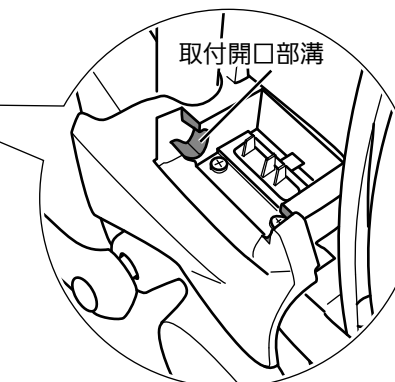
100 % 充電まで・・・・・約 3 時間
(充電時間は、アシストがなくなるまでバッテリーを使用したときの目安です。)

お知らせ

- 走行直後などバッテリー内部の温度が上昇しているときは、充電できないことがあります。バッテリー内部の温度が規定温度まで下がれば、充電を開始します。
(周囲の温度により、充電開始までに 1 〜 2 時間かかる場合があります。)

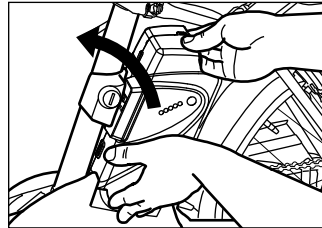
5. バッテリーを充電器から外す

残量表示ランプが消灯(充電完了)していることを確認し、充電器を押さえながらバッテリーを外した後、コンセント(AC100 V)から電源プラグを抜く。

※充電器の待機消費電力は約 1.5 W です。

6. 自転車の取付開口部から端子カバーをはずし、バッテリーを乗せる

取付開口部溝とバッテリーのツメを合わせながら乗せる。
(残量表示ランプのある面を手前にする。)

お願い

- 汚れやほこりがつくのを防ぐため、取り外した端子カバーは、充電器の充電端子部にかぶせておいてください。

充電しましょう(2)

7. バッテリーを起こす

バッテリーを「カチッ」と音がするまで、垂直に起こす。
(バッテリーのカドを支点にして、弧をえがくように起こす。)

お願い

●装着後、バッテリーを手前に引いてみて、確実に装着されたことを確認してください。

⚠注意

■バッテリーが確実に装着されたことを確認する

落下し、けがをするおそれがあります。

充電するときのポイント

お願い

●初めて乗る時や 1 ヵ月以上乗られていない場合は、必ず充電してください。(出荷時は、満充電していません。)
●充電時の周囲気温は、5 ℃～ 35 ℃の場所で充電してください。(結露しないようご注意ください。)
●充電器には、水やほこりがたまらないよう、ご注意ください。
●雨天走行後に充電するときは、水分をふき取ってから充電してください。(充電器内に水が入って故障の原因になります。)
●充電器は、必ず、外装箱から出して、ご使用ください。(充電中の熱により、ケース等が変形するおそれがあります。)
●使用しなくても、3 ヵ月に一度は充電してください。(☞ 42 ページ)
●テレビ・ラジオなどのそばで充電をすると、雑音が入ったり、テレビの画面がちらついたりする場合があります。その場合は、電化製品から離して(コンセントを変えるなど) 充電を行ってください。

お知らせ

●バッテリー保護の為に、満充電からの再充電はできません。
●バッテリー温度が低い場合は、充電時間が長くなります。
●リチウムイオンバッテリーは、メモリー効果がありませんので、リフレッシュ充電※ は不要です。
※リフレッシュ充電とは、バッテリー性能を回復させるため一度放電させた後、充電を行うことです。

乗るまえの準備(1) 組立手順

1. 車両本体(車体部) を組立てる

⚠警告

■メインパイプのジョイント部分を持って開閉しない

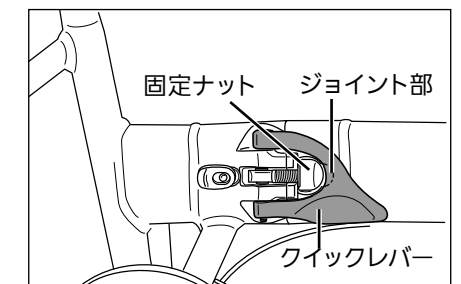
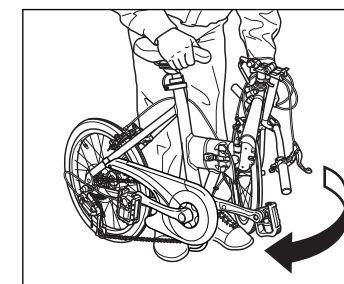
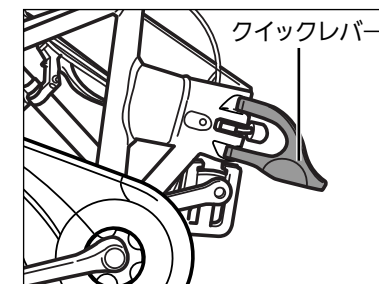
指や手をはさんでけがをするおそれがあります。

■クイックレバーフックをかけて走行する

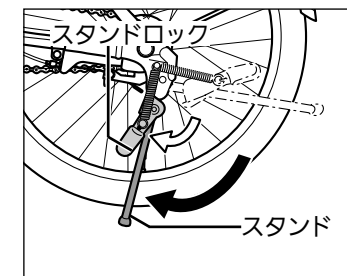
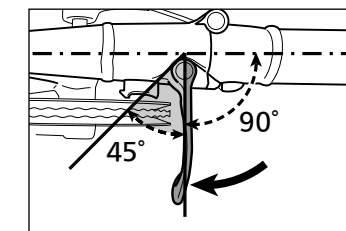
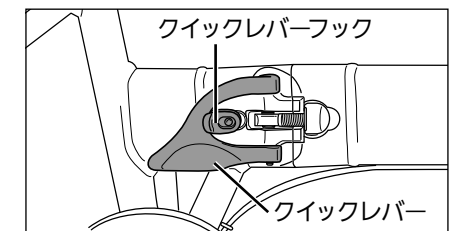
転倒によるけがのおそれがあります。

■固定ナットが奥まで確実にはまっているか確認する

メインパイプのジョイント部分が開き、転倒によるけがのおそれがあります。

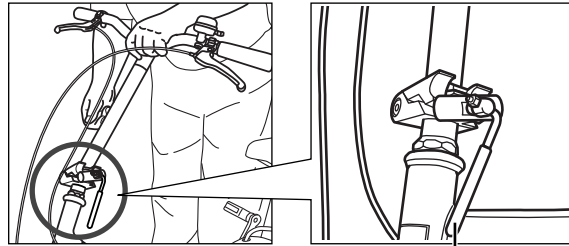
①クイックレバーが進行方向(前方)にあることを確認し、二つ折りになっている自転車を開く。
固定ナットがジョイント部へ入り込み、仮固定します。

お知らせ

●クイックレバーが進行方向(前方) に向いていないと、ジョイント部へ固定ナットが入り込みません。

②スタンドを立てる。

③クイックレバーを後方へ回転させる。

④クイックレバーをクイックレバーフックに引っ掛かるまで、確実に閉める。

お願い

●クイックレバーの回転が、フレームと直角(90°) の位置にくるまでに、重くなったり、後方 45°の位置を越えても手ごたえがない場合は、販売店に固定ナットの調整をご依頼ください。
●組立後は、クイックレバーにクイックレバーフックが確実に引っ掛かり、クイックレバーが動かないことを確認してください。

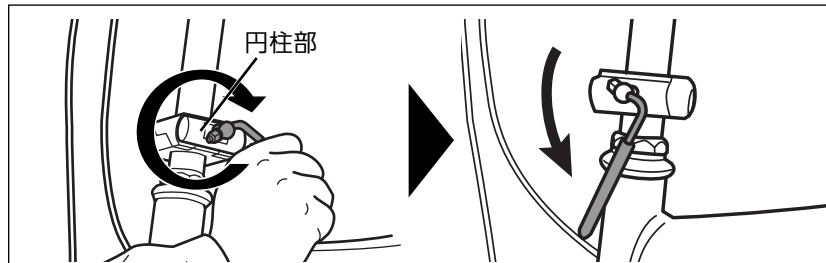
2. ハンドルを組み立てる

①ハンドルを起こす。(折りたたみレバーのねじはゆるめておいてください。)

■ジョイント部分を持ってハンドルを起こさない

指や手をはさんでけがをするおそれがあります。

■折りたたみレバーは必ず締め付けた状態で走行する
■ハンドルを締め付けてもガタや緩みがあるときは乗らない

走行中、ハンドルが折れ曲がり、転倒によるけがのおそれがあります。

②折りたたみレバーは、時計方向に力一杯締付けた後、邪魔にならない位置に移動させる。(レバー先端に約 150 N{15 kgf} 以上の力で締め付けてください。)

1) 円柱部が「カチッ」とはまり込んだのを確認する。
2) レバーを締め付ける。
3) 折りたたみレバーを邪魔にならない位置に移動させる。

お願い

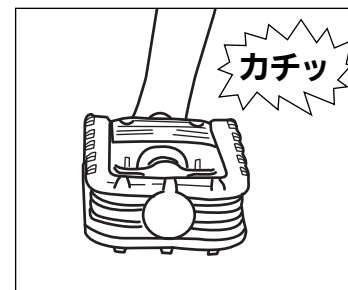
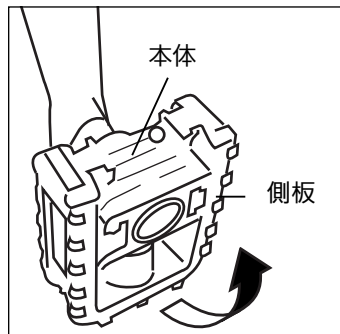
●組立後は、ハンドルが確実に固定され、がたつきがないことを確認してください。

お知らせ

●ハンドルの高さは調整できません。

3. 左右のペダルを組み立てる

①側板を水平に上げる。

②側板を「カチッ」と音がするまで上にあげます。

警告

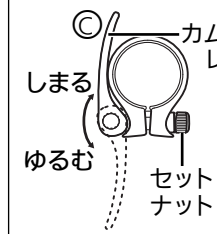
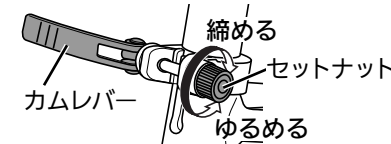
■側板と本体の間に指を入れない

指や手をはさんでけがをするおそれがあります。

■組立後はがたつきがないか点検する

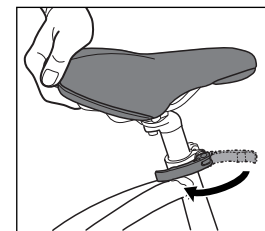
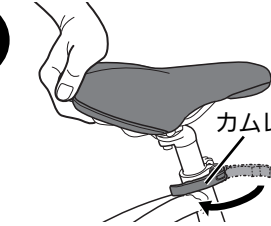
踏み外して転倒によるけがのおそれがあります。

4. シートピンの初期調整をする

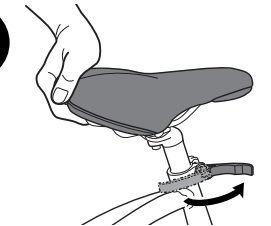
①セットナットを回転させ、固定の強さを調整する。

クイックシートピンでシートポストを固定するとき、カムレバーが、Ⓒの位置でシートポストの固定がゆるい場合はカムレバーをいったん開けて、セットナットを1/2 ～ 1 回転締め込み、再度カムレバーをⒸの位置まで閉めてください。

お願い

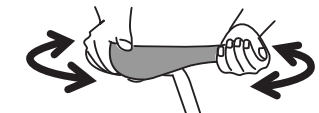
●カムレバーを閉じるときの力は、カムレバーの先端を手のひらで力いっぱい押込んで閉じられるくらいが正常です。重すぎる場合や軽すぎる場合はセットナットで調整してください。

②サドル前端が正しく進行方向を向く様保持しながら、カムレバーを回転させずに、開閉によって締付ける。

■カムレバーは、後方向に確実に閉める

固定が外れ、転倒によるけがのおそれがあります。

注意

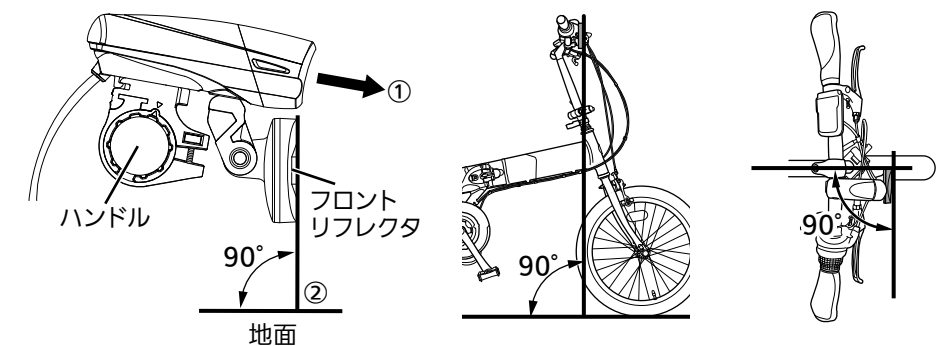
■カムレバーを開けるときは、サドルを支え持つ

サドルが落下し、手や指をはさんでけがをするおそれがあります。

警告

■調整後は必ずがたつきやずれがないか点検をする

シートポストが折れたり、固定が不安定になり、転倒によるけがのおそれがあります。

5. バッテリーライト、フロントリフレクタの調整確認

①バッテリーライトが、前方 10 m の路面が見える角度になっているか確認してください。

②フロントリフレクタの反射面が地面及び前車輪に対して直角になっているか確認してください。

お願い

●バッテリーライトの角度を変更すると、フロントリフレクタの角度も変わってしまうため必ずライト角度調整後、フロントリフレクタの角度調整をおこなってください。

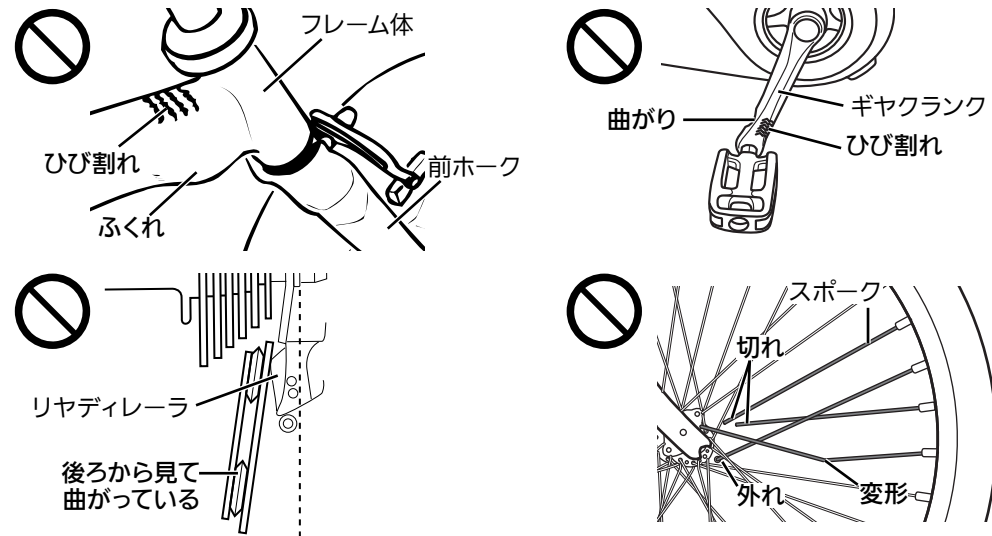
乗るまえの点検と調整(1)

日常、必ず実施する習慣をつけましょう。

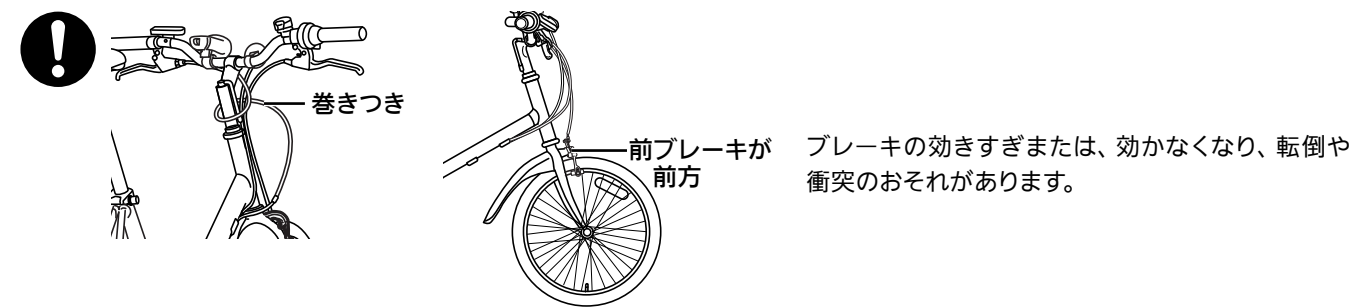
安全にご乗車いただくため、乗るまえにつぎの点検、調整と走行テストを実施する習慣をつけましょう。

⚠警告

■各部にガタやユルミおよび、変形・ひび割れ等があるときは乗らない

フレーム体
ひび割れ
前ホーク
ふくれ
ギヤクランク
曲がり
ひび割れ
リヤディレーラ
後ろから見て曲がっている
スポーク
切れ
外れ
変形

折れて転倒による、けがのおそれがあります。
- ●ひび割れや変形を見つけたら、すぐに乗るのを止めて、販売店で点検、交換をしてください。
- ●前ホークは衝突などの強い力を受けたとき、変形することによって乗員や車体への衝撃を和らげるように設計してあります。衝突や転倒など強い衝撃が加わった後は、前ホークに変形やひび割れなどの異常がないか点検してください。
- ●スポークが１本でも切れたまま使用を続けると、他のスポークに負担がかかり寿命が短くなります。切れたスポークは直ちに交換してください。できれば、すべてのスポークを交換されることをお勧めします。
- ●ハンドルを締め付けてもガタ・ユルミがあるときは、すぐに乗るのを止めて、販売店で点検をしてください。

■前車輪の方向およびブレーキワイヤや変速ワイヤが、ハンドルステムやフレームに巻きついていないかを確認する

ブレーキの効きすぎまたは、効かなくなり、転倒や衝突のおそれがあります。

■乗るまえの点検は、必ず実施する

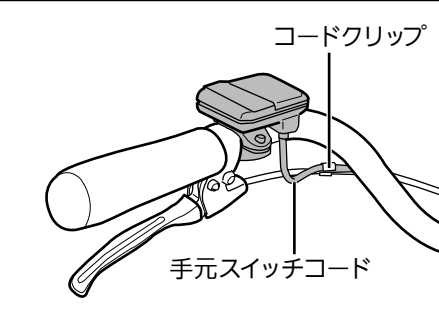
事故や転倒によるけがのおそれがあります。
- ●前後ブレーキの効き、作動の点検をしてください。
- ●ハンドル・ハンドルステムが、確実に固定されているか点検してください。
- ●前後車輪が、確実に固定されているか点検してください。
- ●前後タイヤの空気圧が適正か点検してください。
- ●バッテリーが確実に装着されているか確認してください。
- ●ワイヤ類（ブレーキ、変速機、手元スイッチコード、バッテリーライトコードなど）がたるんでいないか確認してください。

■点検で変形や曲がり、ひび割れなどの異常があったときは、乗車しない

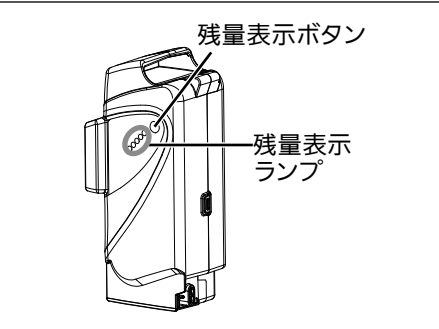
事故や転倒によるけがのおそれがあります。
- ●異常があったときは販売店にご相談ください。

■自転車部品の点検（電源を切った状態で行ってください）

■駆動ユニット、手元スイッチ、バッテリーの点検

●駆動ユニット

電源を入れたとき
◎異常な音はしていないか?
◎異臭はしていないか?
◎モーター部や底部が高温になっていないか?

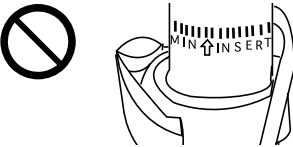
外観を見て
◎バッテリー取付端子部が汚れていないか?(☞ 44 ページ)

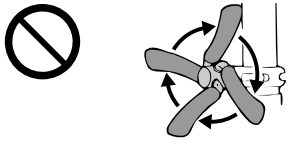
ペダルに力を加えてみて
◎駆動ユニットがフレームに対してがたついていないか?

●手元スイッチ

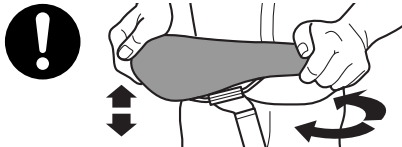
電源を入れたとき
◎残量表示ランプ、アシスト表示ランプが点灯するか?(☞ 34 ページ)
◎ライトボタンを押すとライトは点灯するか?(☞ 28 ページ)

外観を見て
◎手元スイッチのケースや操作スイッチ部にひび割れ等がないか?
◎ハンドルを曲げたとき、手元スイッチコードが突っ張っていないか?
◎コードクリップははずれていないか?

●バッテリー

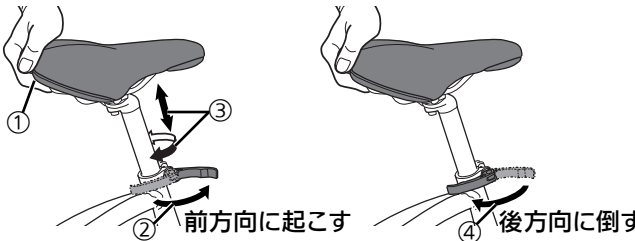
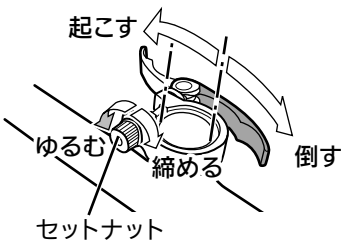
残量表示ボタンを押したとき
◎残量表示ランプが点灯するか?(☞ 32 ページ)

外観を見て
◎ケースにひび割れや変形、ねじのゆるみ等はないか？

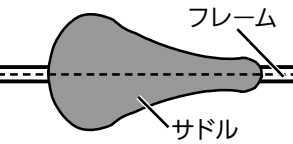
車体に装着してみて
◎車体に装着したとき、しっかりと車体にはまっているか?(☞ 18 ページ)

■サドルの高さ調整

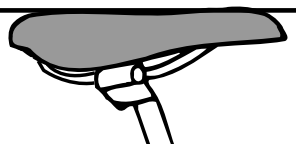
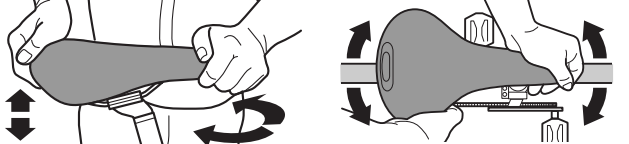
⚠警告

■はめ合せ限界標識が見えるまで上げない

■カムレバーを回転させて締めつけない

■調整後は必ずがたつきやずれがないか点検をする

シートポストが折れたり、カム機構が動かなくなって転倒によるけがのおそれがあります。

■サドルの上面が傾いたまま走行しない

サドル固定ボルトが折れたり、固定が不安定になり、転倒によるけがのおそれがあります。

●高さと向きの調整

①サドルを支え持つ。
②カムレバーを前方向に起こす。
③サドルの高さと向きを調整する。
④カムレバーを後方向に倒す。

カムレバーを後方向に倒してもサドルが固定できない時は、カムレバーを前方向に起こして、セットナットを締める方向に 0.5 〜 1 回転回し、再度、カムレバーを後方向に倒して、サドルが固定されている事を確認ください。

●正しい方向

フレームと平行に合わせる。

●正しい角度

サドルの上面と地面を平行にする。

●サドルの点検

上下・左右交互に強い力を加え、がたつきやずれがないこと。

お願い

●さび付きを防止するために、シートポスト(立パイプに挿入されている部分)に、薄くグリスを塗ってください。
●サドル上面が傾いたままご使用されますと、サドル固定ボルトが折れる場合がありますので、正しく調整してください。
●角度の調整は販売店にご依頼ください。

■ブレーキの調整（販売店に依頼してください）

⚠警告

■ブレーキレバーの遊びが大きいままや、小さいままで走行しない

ブレーキが効かなくなったり、効き過ぎたりすることがあり、転倒や衝突によるけがのおそれがあります。

●ブレーキが効かないときやブレーキレバーの遊びが不適切なときは、すぐに販売店で点検を受けてください。

■ロックナットは確実に締め付ける

ブレーキの調整が狂い転倒や衝突によるけがのおそれがあります。

■ローラーブレーキグリスの補給には、必ずローラーブレーキ専用グリスを使用する

制動力が低下し、転倒や衝突によるけがのおそれがあります。

●販売店でローラーブレーキ専用グリス（当社品番：NBP002）を補給してください。

■音鳴りがしたり、ブレーキの効きが強すぎる場合は使用しない

転倒や衝突によるけがのおそれがあります。

●すぐに販売店で点検を受けてください。

⚠注意

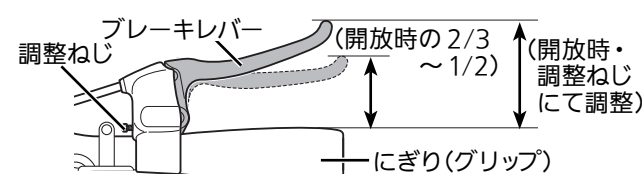
■走行直後は、ブレーキ部に手を触れない

接触禁止

ブレーキ部が高温になり、やけどの原因になります。

※下記はブレーキの調整ねじを使用した応急的な調整方法です。販売店でブレーキワイヤを張り直すなど、点検・再調整を行ってください。

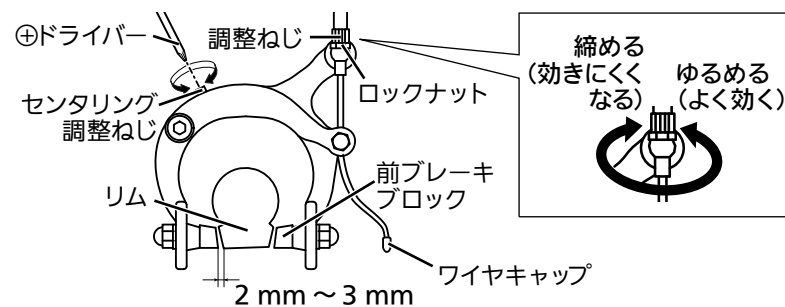
●ブレーキレバーとグリップの間隔

ブレーキレバーとグリップの間隔は、開放時の2/3～1/2の位置で、ブレーキが効きだすように、調整する。

お願い

●上記の調整範囲は目安です。調整後は必ずブレーキテストをしてください。

●前ブレーキ

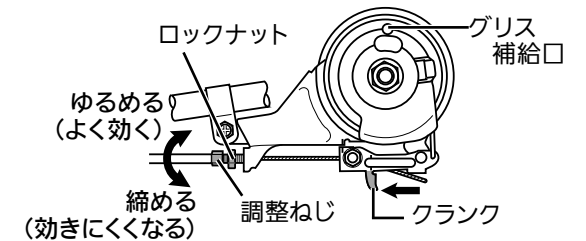
①ロックナットをゆるめる。
②調整ねじを回す。
③センタリング調整ねじで、リムと前ブレーキブロックのすき間が左右均等になるように調整する。
④走行してブレーキの効きを確認する。
⑤調整ねじがゆるまないよう、ロックナットを適正締付トルクで締め付ける。

締付トルク：1 N•m ～ 2 N•m{10 kgf•cm ～ 20 kgf•cm}

●後ブレーキ（ローラーブレーキ）

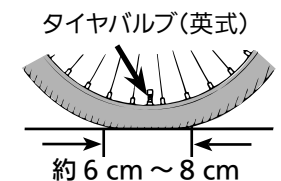
①ロックナットをゆるめる。
②クランクを押しながら、調整ねじを回す。
③ブレーキの効きを確認する。
④調整ねじがゆるまないよう、ロックナットを適正締付トルクで締め付ける。

締付トルク：1 N•m ～ 2 N•m{10 kgf•cm ～ 20 kgf•cm}

お願い

●確実な制動力を得るために、通常1～2年に1回程度は販売店でローラーブレーキ専用グリスを補給してください。
●ブレーキ調整が不適切な場合、ブレーキが効き過ぎたり、逆に効かないことがあります。また、使用によるなじみや摩耗で、ブレーキの効き具合が変わります。ブレーキが効きにくい場合は、販売店で点検を受けてください。

■空気圧の調整（前後のタイヤ）

●適正な空気圧

自転車に乗った状態で接地部の長さが、約6 cm～8 cm程度が、適正です。
圧力計のついたポンプでは、空気圧の測定が可能です。
300 kPa ～ 450 kPa{3.0 kgf/cm^2 ～ 4.5 kgf/cm^2} が適正です。

お知らせ

●長期間使用しない場合は、空気圧は自然に減ります。
●タイヤバルブの型式は、英式です。

●空気の入れ方

自転車用のポンプを使って空気を入れます。

■タイヤについて

お願い

●走行前にタイヤに異物が刺さっていないか点検してください。パンクやタイヤ・リムを損傷させる原因になります。
●タイヤの空気圧は300kPa{3.0kgf/cm^2} 未満では使用しないでください。タイヤのひび割れ、偏摩耗やパンクの原因になります。
●ストーブなどの熱源の近くに置かないでください。
●ガソリン・有機溶剤・油類が付着したときは、すぐふき取ってください。

乗るまえの点検と調整(4)

■バッテリーライトの取扱い

⚠警告

■ライトの取付がゆるんだまま、走行しない

照射位置が狂い、衝突や転倒によるけがのおそれがあります。

■走りながら、ライトボタンの操作をしない

衝突や転倒によるけがのおそれがあります。
●一旦停止して、操作してください。

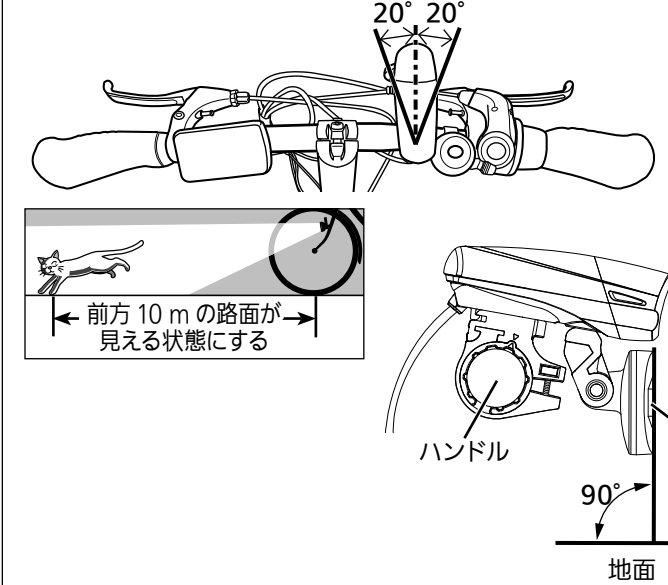
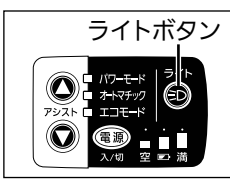
■夜間や視界の悪いときは無灯火で乗らない

衝突や転倒によるけがのおそれがあります。
●ライトがつかないときは、押して歩いてください。
無灯火での夜間乗車は、法令違反になります。

●角度の調整

バッテリーライトは左右各 20° ずつ方向を変えることができます。運転者から前方 10 m の路面が見えるような角度に調整してください。

締付トルク：
0.6 N･m ～ 0.7 N･m{6 kgf･cm ～ 7 kgf･cm}

バッテリーライトの角度調整後、フロントリフレクタの反射面が地面及び前車輪に対して直角になるように調整してください。
締付トルク：0.7 N･m{7 kgf･cm}

●点灯方法

①ライトボタンを押すとバッテリーライトが点灯します。
②再度ライトボタンを押すと消灯します。

※バッテリーライトは手元スイッチの電源の入切に関係なく点灯・消灯することができます。
※停止して約 10 分経つと、自動的に消灯します。

お知らせ

●内部の LED は基板直付のため交換はできません。
●アシストがなくなっても、バッテリーライトは、ゆっくり点滅してから消灯します。
●レンズは取り外せません。無理に取り外すと、本体が壊れる原因になります。
●バッテリーライトは規定角度以上動かさないでください。無理に動かすと、組付部が破損するおそれがあります。

わからないときは、販売店にご相談ください。

■走行距離の目安

●新測定方法

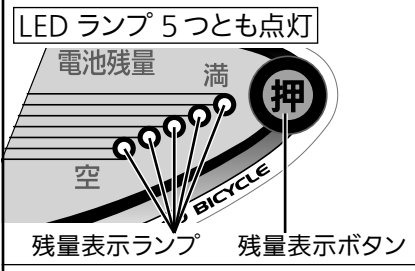
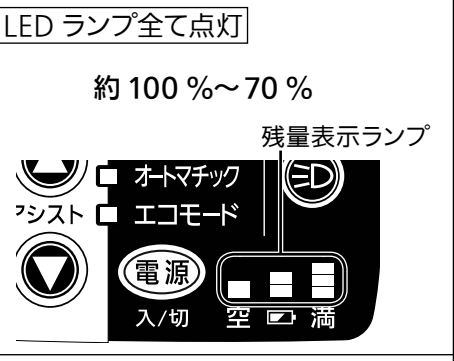
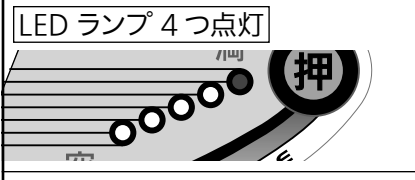
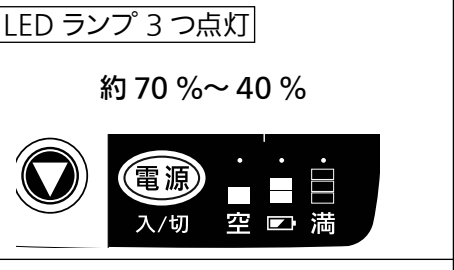
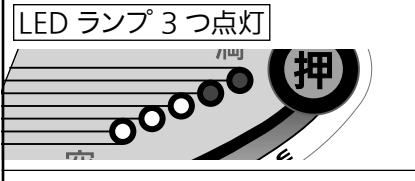
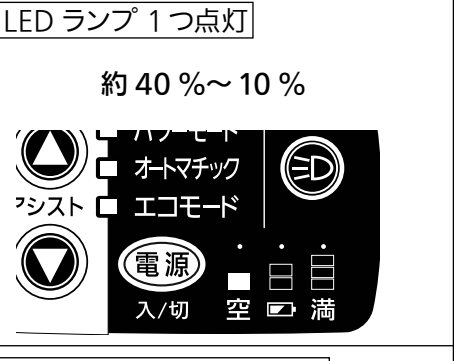
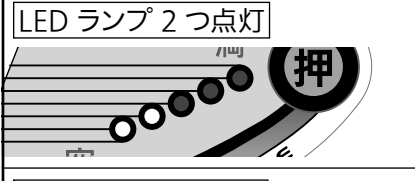
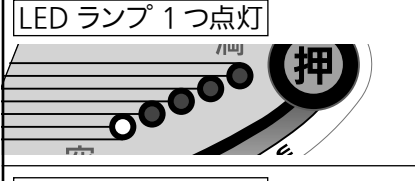
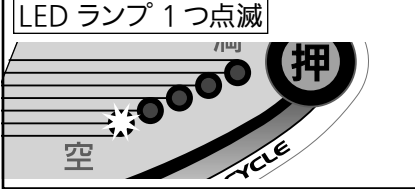
(社) 自転車協会が定める電動アシスト自転車の走行距離の測定方法に関する基準(2010 年 4 月 1 日施行) に基づき測定

走りかた	走行条件	走行距離(km)
標準パターン (業界統一新テスト条件)※	標準パターン(4 km) Aは、平坦路 1 km、変速 7 15 km/h Bは、4 度坂 1 km、変速 4 10 km/h Cは、平坦路 1 km、変速 7 15 km/h Dは、4 度坂 1 km、変速 7 20 km/h ●印は 10 秒間の停止を表す	23 km パワーモード 26 km オートマチック 37 km エコモード
4 度登坂連続パターン	4 度坂、変速 4、10 km/h	8.1 km パワーモード 8.8 km オートマチック 12 km エコモード

※(社) 自転車協会が定める電動アシスト自転車の走行距離の測定方法に関する基準に準拠したテスト条件。
記載する一充電当たりの走行距離の測定条件は，以下の通りです。(業界統一新テスト条件)
1) 環境温度は 20 ± 5 ℃、無風の状態
2) バッテリーは新品を用い、バッテリーライトは消灯状態
3) 車載重量(乗員と荷物の合計) は 65 kg
4) 路面は乾燥した平滑な路面
5) タイヤ空気圧は標準空気圧 350 kPa
6) シャーシダイナモ(室内計測機) による計測

●各アシストモードの詳細については、36 ページをご覧ください。
●走行距離は、バッテリーの劣化度合や、発進停止・徐行後の加速・登坂路走行の頻度により短くなります。
また冬期など気温が低いときにも短くなります。(☞ 33 ページ参照)

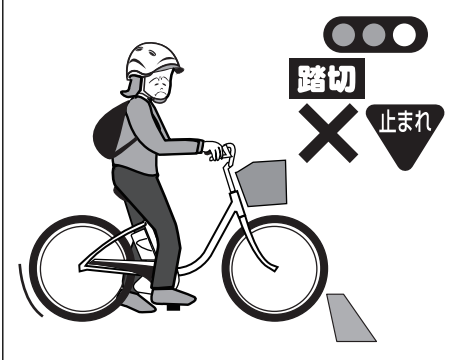
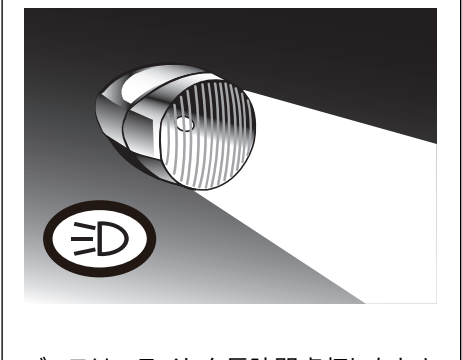
〈参考〉その他の走行パターンによる測定

走りかた	走行条件	走行距離
平坦路連続走行 連続走行	平坦路、変速 7、15 km/h	標準パターンの 180% (オートマチック)
2 度登坂連続走行 連続走行	2 度坂、変速 4、10 km/h	4 度登坂連続パターンの 180% (オートマチック)

●旧測定方法〈参考〉

走りかた	走行条件	走行距離(km) 10 20 30 40 50 60 70
当社標準モード走行 A B C D E 5 km	Aは、平坦路 1 km、変速 7 15 km/h Bは、2 度坂 1 km、変速 5 10 km/h Cは、平坦路 1 km、変速 7 15 km/h Dは、2 度坂 1 km、変速 7 20 km/h Eは、平坦路 1 km、変速 7 15 km/h	48 km オートマチック 78 km エコモード
平坦路 連続走行	平坦路、変速 7、15 km/h	69 km オートマチック

1) 環境温度は 20 ± 5 ℃、無風の状態
2) バッテリーは新品を用い、バッテリーライトは消灯状態
3) 車載重量は 60 kg(荷物は無積載の状態)
4) 路面は乾燥した平滑な路面
5) タイヤ空気圧は標準空気圧 350 kPa

わからないときは、販売店にご相談ください。

■バッテリーの残量 バッテリーの残量と目的地までの距離をよく確認してください。

バッテリーの容量が、どの程度残っているか、またはどの程度充電されているかを知ることができます。
バッテリーの残量表示ボタンを押すと、残量表示ランプが、残量を表示します。
（あくまでも目安としてご使用ください。）

バッテリー部 残量表示ランプの表示状況	バッテリー残量 20 40 60 80 100 %	手元スイッチ部 残量表示ランプの表示状況
LED ランプ 5つとも点灯	100 %～80 %	LED ランプ全て点灯 約 100 %～70 %
LED ランプ 4つ点灯	80 %～60 %	
LED ランプ 3つ点灯	60 %～40 %	LED ランプ 3つ点灯 約 70 %～40 %
LED ランプ 2つ点灯	40 %～20 %	LED ランプ 1つ点灯 約 40 %～10 %
LED ランプ 1つ点灯	20 %～10 %	
LED ランプ 1つ点滅	10 %～0 %	遅い点滅→早い点滅→消灯 約 10 %～0 %

お知らせ

- ●バッテリーが新品のときや、長期間使用されていないとき、または、厳寒の日や急な坂を登ったときは、まれに、残量表示ランプが点灯していても、アシスト力が働かないことがあります。このような時は、再度充電してください。
- ●バッテリー残量が少ない状態（空に近い状態）で一定期間放置すると保護回路が働き、電源が入らなくなる場合があります。その場合はバッテリーを充電器にセットすると解除されます。

■走行距離が短くなる環境 / 使い方

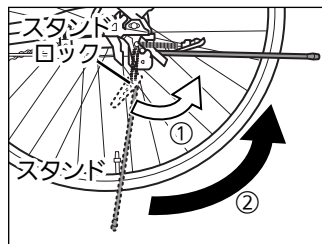
冬期、寒いとき※1
坂道が多いとき
向かい風が強いとき※2 や走行速度が速いとき
乗員体重、積載質量（荷物）が重いとき※3
発進、停止、加減速の回数が多いとき
路面の状態が悪い（凸凹みち）とき
タイヤの空気圧が低下しているとき
ペダルが重くなる走り方（例：重い変速位置（ギヤ）で走行）、急加速をしたとき
バッテリーライトを長時間点灯したとき

※1 冬期（寒い環境　約 5 ℃以下）では、バッテリーの性能が低下し、走行距離が大幅に短くなることがあります。
⇨ バッテリーを暖かい室内で保管し、使用するときだけ自転車に装着することで、性能低下を軽減することができます。
※2 風速2 m/s の向い風中を走行した場合、約 40 %、走行距離が短くなります。
※3 積載質量 (乗員体重) が 10 kg 増えた場合、約 10 %、走行距離が短くなります。

- ●充電回数の増加や使用期間が長くなることでバッテリーの容量が少なくなり、走行距離が次第に短くなります。
- ●バッテリーは使用しなくても少しずつ自然放電し、目安の走行距離まで走れないことがあります。
  ⇨ 乗車前にバッテリーの残量確認を心掛けてください。
- ●そのほかにも、走行距離は、気象条件、路面の状況、自転車の整備具合、自転車の乗り方などにより、大幅に短くなることがあります。

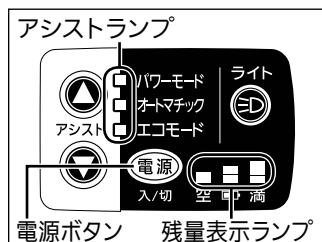
さあ、乗りましょう！（1）

わからないときは、販売店にご相談ください。

1. スタンドを上げ、乗車する。

スタンドロックを解除し、スタンドを後方へ完全にはね上げる。

お知らせ

●スタンドを立てたまま乗車しないでください。スタンドが壊れるおそれがあります。

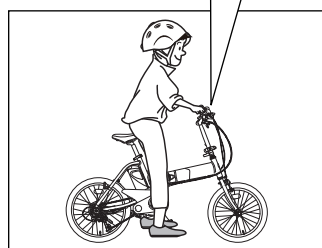
2. ペダルを踏まずに電源を入れる

手元スイッチにある電源ボタンを押す。

残量表示ランプとアシストランプが全点灯し、約 2 秒後にアシストランプが 1 灯点灯し、残量表示ランプが現在のバッテリー残量を表示します。全点灯の間はモーターユニットの初期化をしているので、ペダルを踏まないでください。

お願い

●残量表示ランプとアシストランプが交互に点滅する時はペダルに踏力を掛けないで電源を入れ直してください。（☞ 48 ページ）

お知らせ

●停止して約 10 分経つと、自動的に電源が切れます。（オートオフシステム）
再度走行する時は、電源を入れてください。

3. 発進する

ハンドルをしっかり握ってから、前後左右の安全を確認し、ペダルを踏んで発進する。（電動補助システムが働き、作動音がします。）

⚠警告

■けんけん乗り（けり乗り）しない

転倒や接触事故によるけがのおそれがあります。
●必ずサドルにまたがって、発進してください。
※けんけん乗り（けり乗り）とは、片足でペダルをこぎながら助走し、反動をつけてサドルにまたがる乗り方です。

⚠注意

■バッテリーロックキーを付けたまま走行しない

キーを紛失したり、足に当たってけがをするおそれがあります。

お願い

●電源ボタンを押した時に手元スイッチの残量表示ランプが点灯しない場合は、バッテリーの充電や固定が確実にできているかを確認してください。
●慣れるまでは、踏み始め及び坂道を上がり終えた直後のアシスト力に注意してください。
●土踏まずやかかとでペダルをこがないでください。
●走行途中では電源を入れないでください。
●停車中は、前後ブレーキをかけた状態にし、ペダルに足を乗せないでください。
●走行中に異常な音がした場合は、乗車を中止し販売店へ相談してください。

お知らせ

●走行中は、ラジオ等に雑音が入る場合があります。
●ペダルに足を乗せた状態での停車時に振動を感じる場合がありますが、駆動ユニット固有の特性によるもので、故障ではありません。
●ワイヤレス式のスピードメータなどでは、誤表示となる場合があります。

■ブレーキのかけかた

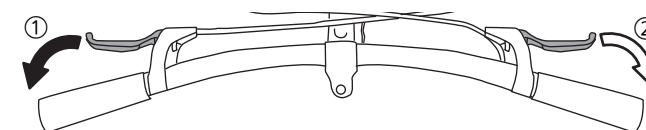
⚠警告

■雨天時や下り坂ではスピードを出さない

ブレーキが効きにくく、スリップしやすいため、衝突や転倒によるけがのおそれがあります。

■前ブレーキだけを強くかけない

車輪がロックし、自転車が前方に転倒し、けがのおそれがあります。

①後ブレーキを先にかけてから
②前ブレーキをかける。

お願い

●急な坂道のときは、降りて押してください。
●下り坂のときは、適時ブレーキをかけながら速度がですぎないように走行してください。
●下り坂の手前では、ブレーキテストを行ってください。
●急ブレーキをかけなくてもよいように、いつも前方に注意してください。

■幼児用座席のご使用について

●この電動アシスト自転車は、幼児用座席を取付けることはできません。

■変速のしかた

警告

■スピードをだしすぎない

衝突や転倒による事故の原因になります。

変速位置	ペダルの回転が	
	軽くなる	重くなる
1	↑	↓
⋮		
7		

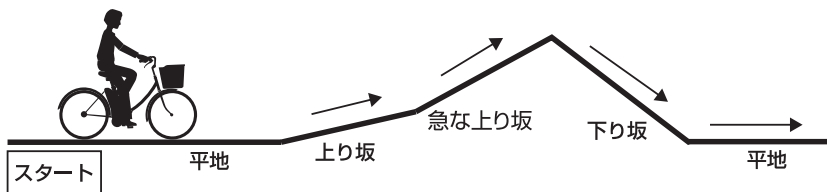
お願い

●変速操作は、よく練習してください。
●変速時は、ペダルを止めるかペダルの踏力を弱くして変速してください。（スムーズに変速できます。）

■アシストモードの切り替えかた（手元スイッチ）

アシスト「エコモード」・「オートマチック」・「パワーモード」の切り替えは、電源が入っていれば、アシスト切替ボタンを押すだけで切り替えができます。

アシストモード	
アシスト切替ボタン ① ②	「パワーモード」…………「オートマチック」モードより楽に走行できますが走行距離は短くなります。 ①↑　↓② 「オートマチック」………通常はこのモードで走行します。 ①↑　↓② 「エコモード」…………アシスト力を自動的に低減させ、走行距離を伸ばします。

●アシスト力の変化

モード設定／走行条件	走行条件とアシスト力					
	スタート	平　地	上り坂	急な上り坂	下り坂	平　地
『パワーモード』	強	強	強	強	オフ	強
『オートマチック』	強	中	強	強	オフ	中
『エコモード』	中	弱	中	中	オフ	弱

お知らせ

●電源を入れた時は、前回電源を OFF した時のモードで起動します（オートメモリー機能）。坂道や重い荷物を載せて走行する時は、アシスト切替ボタンを押し、「パワーモード」にしてください。
●電動アシスト自転車になれるまでは「エコモード」で走行してください。
●下り坂等でペダルが軽くなると、すべてのモードで自動的にモーターが止まり無駄な電力消費を抑えます。
●アシスト切替ボタンの「 △ 」と「 ▽ 」を押し過ぎてもアシストモードは一巡しません。

■変速機の上手な使いかた

（標準的な変速位置を示していますが、自分の体調や脚力にあわせ、適切な変速位置をお選びください。）

推奨変速位置

平地を走るとき…

●シフトを 5 から 7 の位置にあわせる

発進するときは、1 から 2 にあわせると楽です。

上り坂のとき…

上り坂の手前で…
●シフトを 3 から 5 の位置にあわせる

きつい上り坂のときは、
1 から 2 にあわせると楽です。

下り坂のとき…

下り坂の手前で…
●シフトを 6（または 7）の位置にあわせる

楽な走行をするには…

●タイヤの空気圧はいつも適切にしてください。（☞ 27 ページ）
●軽めの変速位置を選んでください。（特に発進と上り坂。）
●変速機やアシストモードは、坂や風の状態、体調等によって、最適の位置を選んでください。

警告

■漕ぐ力を抜いて、ペダルを空転気味に軽く回転させながら変速操作をする

間違った変速操作をすると事故や故障の原因になります。
●初めて変速機を使われる人は、よく練習してください。

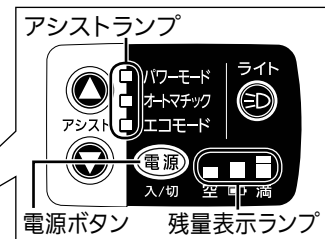
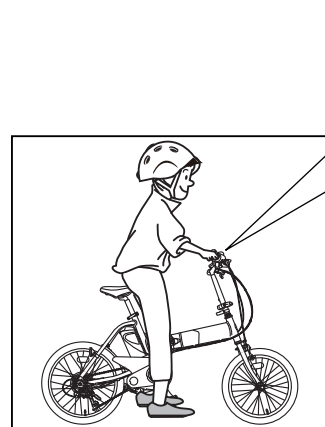
■次のような変速はしない

●ペダルを止めたままの変速
●停止しているときの変速
●ペダルを逆転させながらの変速
●ペダルを強く踏みこみながらの変速
●シフトグリップを無理に操作する変速
●一度に 2 段以上する変速

事故や故障の原因になります。

乗ったあとの駐輪・施錠

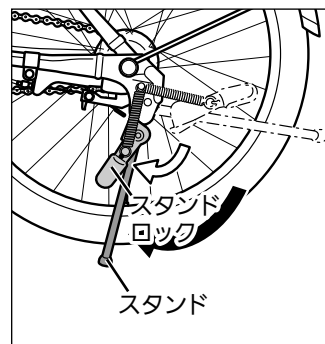
1. 自転車から降りる前に手元スイッチの電源を切る

アシストランプ
パワーモード
オートマチック
エコモード
ライト
アシスト
電源
入/切
空
満
電源ボタン
残量表示ランプ

手元スイッチにある電源ボタンを押して、電源を切る。

残量表示ランプとアシストランプが消灯する。

お知らせ

●バッテリーライト点灯時、電源を切ると、ライトは消灯します。

2. 駐輪する

ブレーキを握ったまま、サドルから降りる。
スタンドを立てる。
（スタンドロックが自動的にかかることを確認してください。）

3. ワイヤ錠で施錠する

駐輪場のご注意

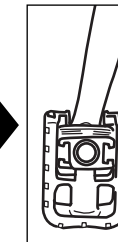
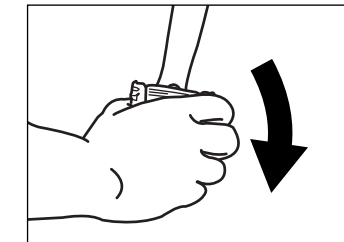
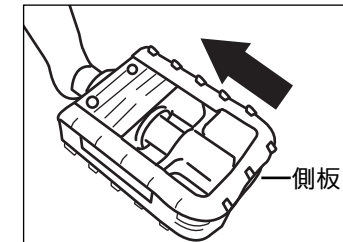
●駐輪場など、決められた場所に駐輪してください。
●盗難防止のため、必ず施錠して駐輪してください。

乗ったあとは…(1)

折りたたみ手順

1. ペダルを折りたたむ

①側板の外側を持って、本体に押し付ける。

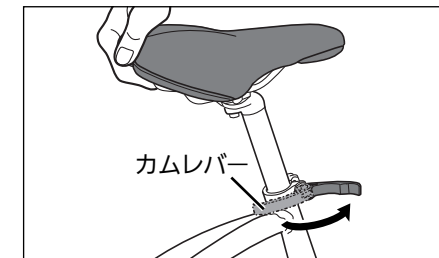
②側板を押し付けながら、下方向に側板を下げる。

⚠注意

■側板の外側を持って作業する

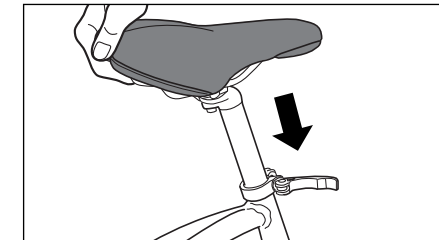
手や指をはさんでけがをするおそれがあります。

2. サドルを下げる

①サドルを支え持ちながらカムレバーを開ける。

⚠注意

■カムレバーを開けるときは、サドルを支え持つ

サドルが落下し、手や指をはさんでけがをするおそれがあります。

②サドルを下げる。

③カムレバーを回転させずに開閉によって締付ける。

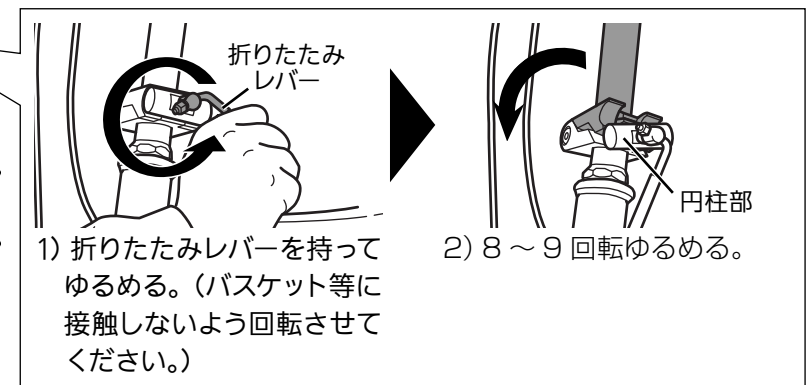
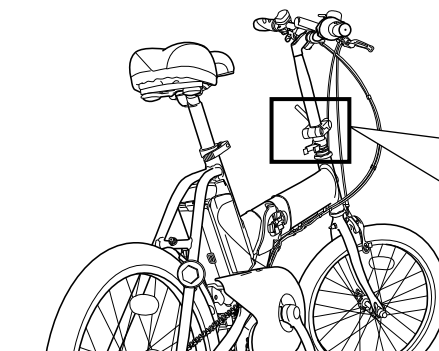
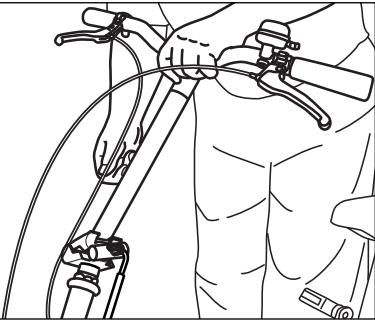
3. ハンドルを折りたたむ

①折りたたみレバーを持ち上げ、反時計方向に回転させてゆるめる。

■ジョイント部分を持って折りたたまない

指や手をはさんでけがをするおそれがあります。

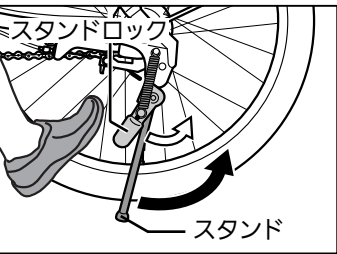
1）折りたたみレバーを持ってゆるめる。（バスケット等に接触しないよう回転させてください。）

2）８～９回転ゆるめる。

②ハンドルを折りたたむ。

お願い

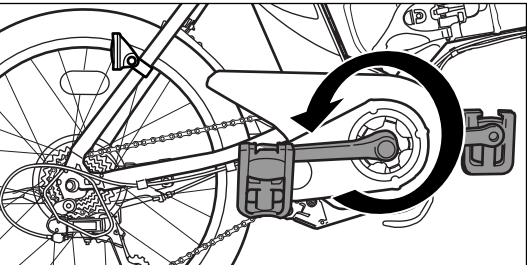
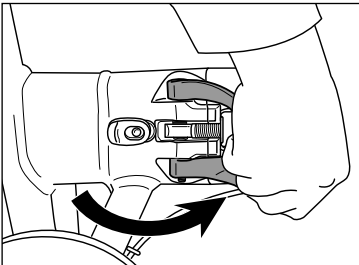
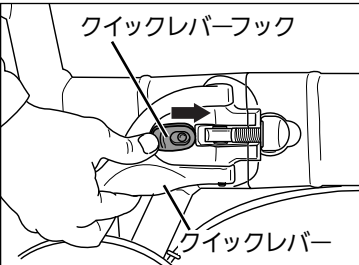
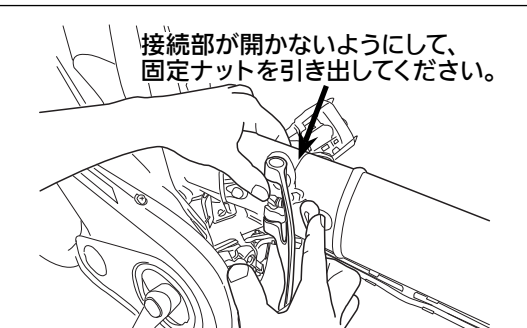
●ハンドルを折りたたむとき、ブレーキワイヤがジョイント部等に引っ掛からないようご注意ください。
●ハンドルを折りたたんだ後、折りたたみレバーを最後まで締め付けてください。

4. 車両本体（車体部）を折りたたむ

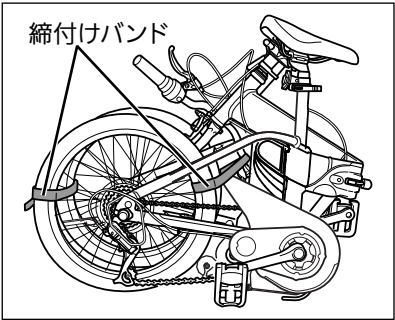
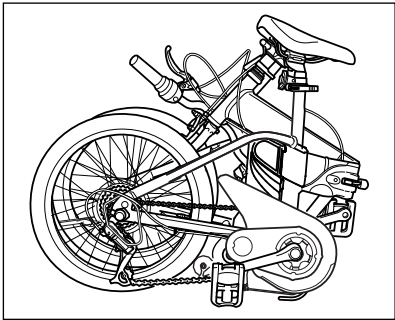
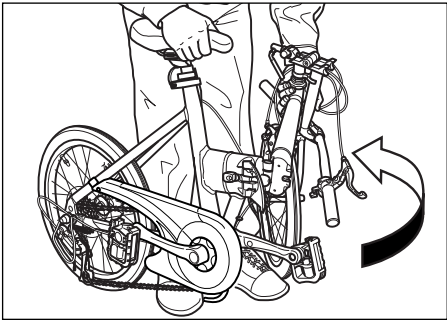
①ロックを解除しスタンドを跳ね上げる。

警告

■ジョイント部分を持って折りたたまない

指や手をはさんでけがをするおそれがあります。

②右側のペダルが後方になるように、ギヤクランクを回転する。

③クイックレバーフックを前方にスライドさせながら、クイックレバーを進行方向（前方）へ回転させる。

④ジョイント部の固定ナットを引き出すとき、折りたたみレバー付け根の車体部を押し付けるようにしながら引き出す。

お知らせ

●折りたたみレバーが進行方向（前方）に向いていないと、ジョイント部の固定ナットは、引き出すことができません。
●接続部に少しでも隙間があると、固定ナットが引き出しにくくなります。

⑤自転車の前半分を反時計方向に回転させて折りたたみ、前後の車輪とハンドルを付属の締付けバンド（2 本）で結束する。

お願い

●前後の車輪が平行になるように、均等に結束してください。
●折りたたんだ状態での持ち運びは、自転車を両手でしっかり持ち、周囲の人、物に十分注意して行ってください。

お知らせ

●フレームを折りたたむ際は、必ずバッテリーロックキーを抜いておいてください。フレームに傷がついたり、バッテリーロックキーが破損するおそれがあります。

乗ったあと

バッテリーについて

バッテリー

■バッテリーの種類

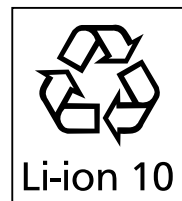
●リチウムイオンバッテリーを使用しています。
●この自転車には、メモリー効果の心配がなく、軽量で安全性に優れたリチウムイオンバッテリーを搭載しています。

品　番
●仕様表でご確認ください。（☞ 52 ページ）

お知らせ
●標準装備のバッテリーは、回生充電対応バッテリーですが、お買い上げの自転車では回生充電を行うことはできません。当社の回生充電機能付電動アシスト自転車に使用すると、回生充電が行えます。

■バッテリーの交換・廃棄

●お買い求めの販売店にご相談ください。

Li-ion 10

大部分の素材がリサイクル可能です。貴重な資源を守るために、使用済みの充電式リチウムイオンバッテリーは、廃棄しないでお早めに販売店かリサイクル協力店へお持ちください。

■寿命の目安

●バッテリーの寿命の目安は、使用期間で 1 年半～ 2 年です。
●使用期間が 2 年以内でも、充・放電回数が 300 ～ 400 回を超えた場合は寿命となります。
●バッテリーの寿命は、走行状況、保存の状態、気温などによって、目安の時期より短くなります。

お知らせ
● 1 回の充電で、走行できる距離が著しく短くなったときが、交換の時期です。（新品時の約 60 %以下）
●冬期 (約5 ℃以下) や寒い環境下では、一充電あたりの走行距離が短くなります。これはバッテリーの特性上の現象で、気温が高くなると走行距離はもとに戻ります。
●バッテリー寿命の目安と、製品の保証期間とは関係ありません。

■バッテリーの長期保管

●電動アシスト自転車からバッテリーを取り外し、満充電して保管してください。
●周囲気温が 0 ℃～ 40 ℃の場所で保管してください。
●バッテリーの劣化を抑えるため、最低 3 ヵ月に 1 回は充電してください。
●バッテリーの残量表示ボタンを押した時に、LED ランプが点灯しない場合、保護回路が働いています。バッテリーを充電器にセットし、充電状態にすると解除されます。
●長期間保管後に再使用するときは、予めバッテリー残量を確認し、不足している場合は必ず充電してください。

運搬／保管／廃棄

運搬

⚠警告

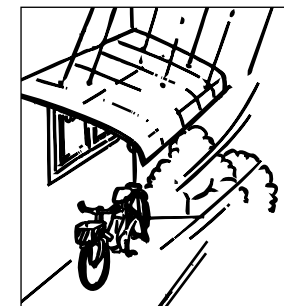
■持ち運びの際には電源を切る

自動車への積載時等、持ち運びの際に不意にペダルが押された場合にセンサーが感知し、車輪が回転し、巻き込まれてけがをするおそれがあります。

お願い
●自動車などでの運搬の際にはバッテリーをはずしてください。
電源を切っていても、不安定な状態で倒れたり、突起部に当たったりして電源ボタンが押され、電源が入る場合があります。さらに、ペダルが押された場合にセンサーが感知し、車輪が回転したり、ライトスイッチが入り、ライトが点灯しますとバッテリーが消耗します。

保管／廃棄

■保管場所

●安定のよいところ。
●風通しがよく、湿気の少ないところ。
●雨つゆや直射日光が当りにくいところ。

■タイヤの管理

●空気を適正空気圧まで入れてください。（☞ 27 ページ）

■長期間保管する場合

●ごみやほこりがつくのを防ぐため、「サイクルカバー（別売オプション）」の使用をおすすめします。
●長期間、バッテリーを取り外したままにするときは、汚れやほこりがつかないように、付属の端子カバーを装着してください。（端子カバーを装着したまま走行しないでください。落下して破損するおそれがあります。）（☞ 16 ページ）

■バッテリーの保管

●バッテリーの保管については 42 ページをご覧ください。

■廃棄するとき

●自転車を廃棄するときは、お住まいの地域のルールに従ってください。
●使用済みの充電式バッテリーは、廃棄せずお早めに販売店かリサイクル協力店へお持ちください。
（資源有効利用促進法に基づき、貴重な資源を守りましょう。）

お手入れ／注油について

お手入れ

■日常のお手入れ

●乾いた布やブラシで、泥や土、ほこりを落としてください。
●洗車は、しないでください。
●がんこな汚れには、台所用洗剤（中性）を薄めてご使用ください。

■湿気の多い所や海岸沿いでのお手入れ

●さびやすいので、お手入れの回数を、多くしてください。

お願い

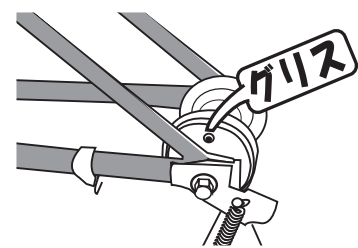
●本自転車は生活防水性能を備えていますが、駆動ユニットやバッテリー、手元スイッチには直接圧力がかかるような洗車や、水をかけながらの洗車はしないでください。駆動ユニットやバッテリー内部に水が入った場合、故障の原因となるおそれがあります。万一、駆動ユニット、バッテリーなどが水に浸かった場合は、販売店で点検をご依頼ください。
●長期間ご使用になるとバッテリーの取外しが固くなる場合があります。これは、車体側接続端子の表面に汚れや酸化物が付着し、バッテリー端子との滑りが悪くなるためです。バッテリーの取外しが固くなったときは、乾いた布で車体側接続端子の汚れや酸化物をふき取ってください。このとき、ショートするおそれがありますので、金属製の物は使用しないでください。
●バッテリーケースの汚れは、水を含ませた布などでふき取ってください。
●シンナー等の有機溶剤は、使用しないでください。（塗装がはげたり、樹脂製部品が浸食されます。）
●サドルには、ワックスをかけないでください。（座ったとき衣服が汚れたり、すべります。）
●雨天走行後は、リム側面のブレーキブロック接触面の砂や泥をふき取ってください。（黒く変色するのを防ぎます。）

注油について

■リムやブレーキブロック（ゴム部）には、油をつけない

注油禁止

■ブレーキグリスの補給には、ローラーブレーキ専用グリスを使用する

ブレーキが効かなくなり、衝突や転倒によるけがのおそれがあります。

注油場所と注油禁止場所

 このマークは、注油場所を示します。

 このマークは、注油禁止場所を示します。

お願い

●油の種類は、必ず、自転車用油を使用してください。（食用油などは、硬化するおそれがあります。）
●余分な油は、乾いた布でふき取ってください。

ブレーキレバー〈前・後〉
レバーの可動部とワイヤの固定部に注油。
（ワイヤがさびて、切れやすくなるのを防ぎます。）

バッテリーロック
キー穴に注油。
（さびによる動作不具合を防ぎます。）

前ブレーキ（ブレーキブロック）

タイヤ〈前・後〉
ついた油は、すぐふき取る。
（ひび割れなど老化を防ぎます。）

後ブレーキ

お願い
●メンテナンスをする場合は専用グリスを使用してください。
（☞ 26 ～ 27 ページ）

リム〈前・後〉

チェーンケース
ついた油は、すぐふき取る。
（変色や塗装がはげるのを防ぎます。）

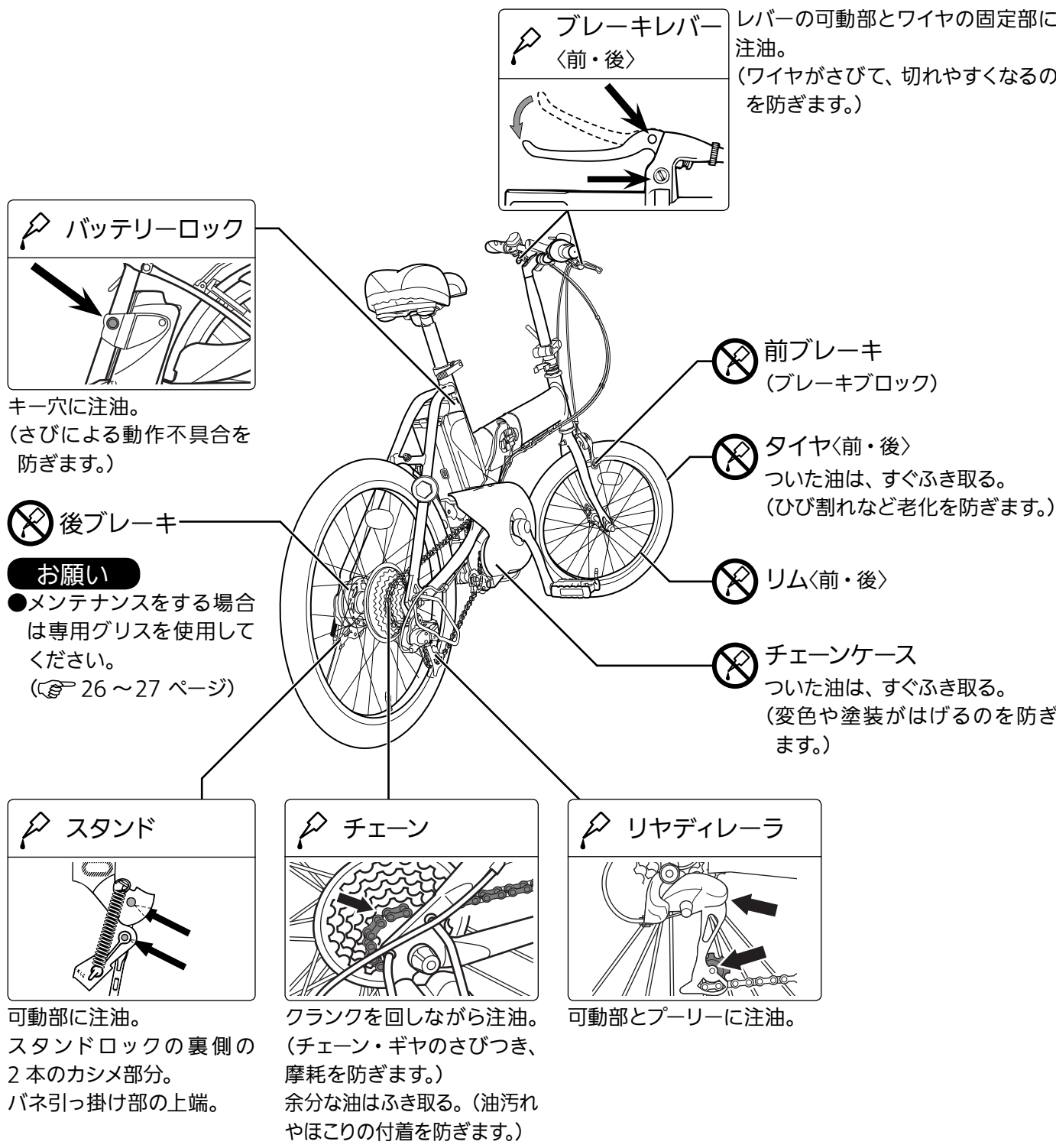
スタンド

可動部に注油。
スタンドロックの裏側の2本のカシメ部分。
バネ引っ掛け部の上端。

チェーン

クランクを回しながら注油。
（チェーン・ギヤのさびつき、摩耗を防ぎます。）
余分な油はふき取る。（油汚れやほこりの付着を防ぎます。）

リヤディレーラ

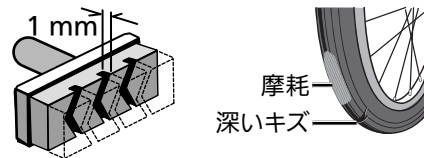
可動部とプーリーに注油。

定 期 点 検

⚠警告

■定期点検は、必ず実施する

異常や故障の発見がおくれ事故発生によるけがのおそれがあります。

■部品の交換は、次の基準で実施する

- ブレーキワイヤ・変速ワイヤは、異常がなくても 2 年に 1 回は、交換する。
- タイヤは、接地面（トレッド）の溝がなくなる前に交換する。
- ブレーキブロックは、溝の残りが、1 mmになる前に交換する。
- ブレーキブロックは、リムにあった純正ブレーキブロックに交換する。

ブレーキが効かなくなったり、スリップのため転倒によるけがのおそれがあります。

点検と整備は、自転車の大切な健康診断です。
いつまでも安全にお乗りいただくために、ご使用後初めての初回（2 ヵ月以内）点検と、6 ヵ月毎の定期点検の実施をお願いします。

●初回（2 ヵ月以内）の点検と整備

お買い上げ 2 ヵ月位のご使用で、各部にねじのゆるみが出ることがあります。
必ず、お買い求めの販売店または修理代行店で、自転車安全整備士、自転車技士（自転車組立整備士）、もしくはそれと同等の技術を有する者により点検・整備をお受けください。

● 2 回目以降（6 ヵ月毎）の点検と整備

安全にご愛用頂くため、必ず継続してお受けください。

この自転車は（社）自転車協会が定めた自転車安全基準に基づく型式検査に合格した適合車です。

自 転 車 安 全 基 準

「自転車安全基準」は、（社）自転車協会が JIS（日本工業規格）をベースに、DIN（ドイツ規格）など海外の規格やヨーロッパの環境負荷物質に関する規制（RoHS 指令）を踏まえて、消費者の安全第一と環境負荷の低減を目的として定めた基準です。

B A A マ ー ク

「BAA マーク」は、自転車安全基準に基づく型式検査に合格した適合車に、貼ることができるマークです。
「BAA マーク」は、自転車の立パイプに貼付されています。
※ BAA= 自転車協会認証 -BICYCLE ASSOCIATION (JAPAN) APPROVED

点検整備済 TS マーク（保険付き）のご紹介

- 工場出荷時に貼付している TS マーク（☞ 15 ページ）には、保険は付帯されていません。
- 傷害保険と賠償責任保険が付帯された保険付き TS マーク（左図）が別にあり、お客様のご希望により貼付することができます。
- 保険付き TS マークは、自転車安全整備店（TS マーク取扱店）で点検整備を行い、基準に適合した安全な自転車であることを確認した上で貼ることができます。
- 費用や保険内容など詳細は、お買い求めの販売店もしくは自転車安全整備店（TS マーク取扱店）にご相談ください。

お願い

●点検 ［ ］年［ ］月［ ］日が記入されていない場合は、
必ず、お買い求めの販売店に記入してもらってください。記入されていない場合は、補償されないときがあります。

故障かな？！

まず、次の表に従ってお調べいただき、直らないときは、お求めの販売店に修理をご依頼ください。

症状		対処方法	ページ
ペダルが重い・アシストしない	手元スイッチのアシストランプ、残量表示ランプが点灯しない	●バッテリーが確実に取り付けられていますか？ ⇨バッテリーを確実に取り付けてください。	16 ～ 18
		●バッテリーの残量表示ボタンを押した時に、2・4 番目の LED ランプが点滅すれば、保護機能が働いています。 ⇨バッテリーを充電してください。	—
	バッテリーの残量表示ランプが点灯しない	●バッテリーの残量表示ボタンを押した時に、LED ランプがすべて点灯しない場合、保護機能が働いています。 ⇨バッテリーを充電してください。 ※充電しても表示が戻らない場合は販売店にご相談ください。	—
	手元スイッチの残量表示ランプが早い点滅をしたり、点灯しない	●充電ができていますか？ ⇨バッテリーを充電してください。	16 ～ 18
	手元スイッチの残量表示ランプとアシストランプが交互に 1 回ずつ点滅する	●ペダルを踏みながら、電源ボタンを押しませんでしたか？ ⇨ペダルを踏まないで、電源ボタンを押して、電源を入れてください。	34
	手元スイッチの残量表示ランプが 2 回、アシストランプが 1 回の割合で点滅する	●駆動ユニットの異常です。 ⇨販売店に修理をご依頼ください。	—
	手元スイッチの残量表示ランプは残量を表示するが、アシストランプが点滅する	●駆動ユニットが過負荷のため、保護モードに入っています。 ⇨変速を軽にするなどを行い、軽負荷で走行してください。しばらくすると正常に戻ります。 ※保護モードに入るとアシスト力が制限されます。そのまま走行していただいても問題ありません。表示が戻らない場合は販売店にご相談ください。	—
	補助（アシスト）が切れたり入ったりする	●配線がゆるんでいたり、端子が汚れていませんか？ ⇨販売店にご相談ください。	—
	補助（アシスト）しない	●停止して 10 分以上たっていませんか？（オートオフシステム） ⇨電源ボタンを押して、電源を入れ直してください。	34
充電できない	バッテリーの残量表示ランプが点灯しない	●バッテリーが正しく挿入されていますか？ 充電器のバッテリー挿入部がよごれていませんか？ ⇨よごれを取り除き、バッテリーを正しく挿入してください。	16 ～ 18
		●満充電ではありませんか？ ⇨バッテリーの残量表示ボタンを押して、チェックしてください。満充電からの再充電はできません。 一度使用してから、充電してください。	—
		●残量表示ボタンを押した時、LED ランプが流れるように点滅する場合はバッテリーの故障が考えられます。 ⇨販売店にご相談ください。	—

症状		対処方法	ページ
走行距離が短い	手元スイッチの残量表示ランプが短い走行で点滅を始める	●充電ができていますか？ ●長期間使用せずに、放置されていませんでしたか？ ⇨バッテリーを充電してください。	16 ～ 18
		●初めて使用するバッテリーではないですか？ ⇨バッテリーを充電してください。	16 ～ 18
		●道路条件や変速位置、苛酷な走行により、走行距離が、短くなります。	30 ～ 31
		●冬期は、バッテリーの特性上性能の低下が大きくなります。	33
		●タイヤの空気圧が低下していませんか？ ⇨自転車用ポンプを使って空気を入れてください。	27
		●ブレーキの調整は正しくできていますか？ ⇨ブレーキの調整をしてください。	26 ～ 27
		●繰り返しの充電や長時間の使用でバッテリーは劣化（性能低下）します。 ⇨ 1 回の充電で走行できる距離が著しく短くなった場合（新品時の約 60％以下）は、新しいバッテリーに交換してください。	42
バッテリーや充電器が熱くなる（発火の心配）		●充電中、充電器は多少熱くなります。 ⇨異常ではありません。	—
		●手で触れられないほど熱い場合は、異常です。 ⇨ただちに使用を中止し、販売店に修理をご依頼ください。	—
充電が完了したのに残量表示ランプが 5 個全部点灯しない		●充電途中で電源プラグを抜きませんでしたか？ ⇨再度充電してください。	16 ～ 18
		●充電器の端子が汚れていませんか？ ⇨乾いた布等で清掃してください。	—
		●長期間使用されたバッテリーですか？ ⇨バッテリーの寿命です。販売店にご相談ください。	—
ペダルに振動を感じる		●ペダルに足を乗せた状態での停車時に振動を感じる場合がありますが、モーター固有の特性ですので、故障ではありません。	—

必要なとき

盗難補償／アフターサービスについて

盗難補償

盗難補償制度とは、電動アシスト自転車をお買い求めいただいたお客様を対象に、ご購入日より3年以内に盗難にあわれた場合、盗難車本体（充電器除く）の希望小売価格（税込）の30パーセントと組立手数料4,200円（税込）で、盗難車と同タイプの新車をお買い求めいただくことができる制度です。制度の詳細は下記の通りです。

ご購入時、保証書のお客様欄に必要事項をご記入され、盗難補償登録カードをご提出いただいたお客様に限り、次の内容により盗難補償がうけられます。

（1）盗難補償の期間と範囲

お買い求めの日から3年間の自転車（別売部品等を含む装着部品の盗難は除く）かつ、盗難日より90日以内に申し込みいただいた場合に限ります。

（2）盗難補償の内容

■お客様のご負担　①充電器を除く本体の希望小売価格（税込み）の30%
②組立手数料　4,200円（税込み）

（3）盗難補償の申込み要領

■提出書類等　①盗難にあった地区の警察署から交付を受けた証明になるもの
（警察受理ナンバーまたは盗難届出証明書等）
②盗難車の保証書
③盗難車のキー（3本）
④盗難補償申込書（販売店が用意いたします。）

■申込み先　お買い求めの販売店へ現金を添えて、お申し込みください。
追って、販売店から新車を、お渡しいたします。

（4）盗難車の所有権

盗難車が発見された場合は、その所有権は当社に帰属することを同意の上お申し込みください。

（5）盗難補償ができない場合

①施錠せず盗難にあった場合
②（3）の書類及びキーがそろわない場合
③防犯登録がされてない場合
④補償期間が過ぎている場合
⑤景品などの贈呈品の場合
⑥盗難補償車が再度、盗難にあった場合
⑦盗難補償登録カードが返送されていない場合
⑧盗難車が見つかり、返ってきた場合

ご注意

●生産等の都合で、同タイプの自転車をお届けできない場合がありますことをご了承願います。

アフターサービス（修理を依頼されるとき）

●保証期間中は、 ▶ お買い上げの販売店が、保証書の規定に従って、修理させていただきます。おそれいりますが、自転車に保証書を添えて、お買い上げの販売店までお持込みください。

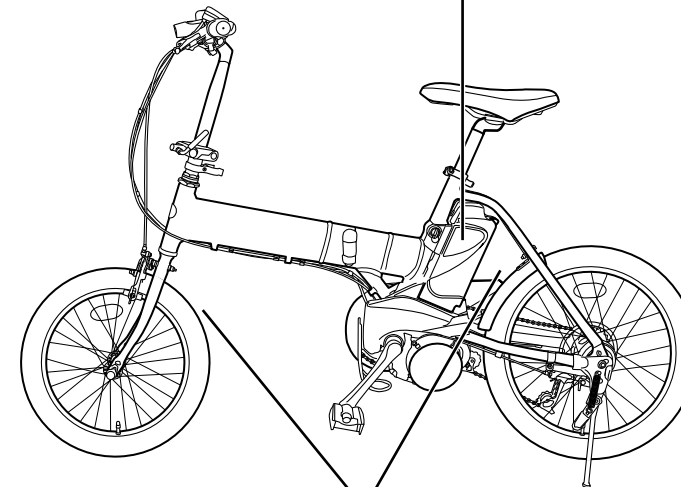
●保証期間が過ぎた後は、 ▶ お買い上げの販売店にご相談ください。

オプション （別売部品）

取付けのポイント

●安全にご乗車いただくため、必ず当社の純正部品をご使用ください。
（当社の純正部品以外をご使用になり、不具合が生じた場合は、保証の対象外になります。）
●オプション部品の品番は都合により変更することがありますので、取付けの際に、販売店にご確認ください。
（掲載している品番は2010年3月 現在のものです。）
●価格等詳細については、販売店にご相談ください。

輪行バッグ
NAR059

バッテリー
NKY256B02（5 Ah品、ブラック）

どろよけセット（前後とも）
SDD005BS（ブラック）

サイクルカバー
※SAR135～136
前後裾絞り（強力合成ゴム使用）
裾中央ナップ棒止め

仕　様

区分	項目	仕様
品名		オフタイム
品番		BE-ENW072
寸法	全長	1,510 mm
	全幅	570 mm
	ハンドル高さ	960 mm
	サドル高さ	740 mm 〜 895 mm
	折りたたみ時	高さ : 650 mm
		長さ : 860 mm
		幅 : 380 mm
総車両質量（バッテリーを含む）		19.1 kg
フレーム		H 形折りたたみフレーム
ハンドルバー		フラットバー
ペダル		折りたたみペダル
スタンド		1 本スタンド
タイヤ（前後）		前 18 × 1.75 HE ／後 20 × 1.75 HE
リフレクタ		シートステー、バッテリーライト下部、前後車輪、ペダルに取付
補助速度範囲 変速 7 の位置		24 km/h 未満
充電1回の走行距離 （標準パターン）		23 km※（パワーモード使用時）
モーター形式		直流ブラシレスモーター
定格出力		250W
補助力制御方式		踏力比例制御
バッテリー	品番	NKY256B02
	種類	リチウムイオンバッテリー
	容量	26 V-5 Ah
	質量（パック）	約 1.4 kg
充電器形式		スタンド型
電　源		AC100 V（50 Hz ／ 60 Hz）
充電時間		約 3 時間
充電器質量（重量）		約 0.7 kg
充電器消費電力		約 80 W
待機消費電力		約 1.5 W
変速機方式		外装 7 段シフト
駆動方式		インラインドライブ
制御装置	前　　輪	サイドプル形キャリパブレーキ
	後　　輪	ローラーブレーキ
照 明 装 置		バッテリー式前照灯
盗難防止装置		ワイヤ錠
乗員適応身長		140 cm以上

●乗車適応身長は、個人差がありますので、目安としてください。
●寸法や質量等の値は、部品のばらつきや仕様変更により、誤差が生じる場合があります。
●仕様変更などにより写真、イラストや内容が一部実車と異なる場合があります。
●バッテリーの寿命は、使用期間で 1 年半〜 2 年間、または充・放電回数で 300 〜 400 回です。
　このときのバッテリー容量は、初期の約 60 %に低下します。（保証回数・期間ではありません。）
●この車種は、乗員体重を 65 kg で基本設計しています。従って、著しくオーバーした体重の方が常用された場合は、各部の消耗度合、劣化度合が大きくなります。走行距離も、『標準パターン』に対して短くなります。
※走行条件 : 環境温度は 20 ± 5℃、無風の状態、バッテリーは新品、バッテリーライトは消灯状態、車載重量 (乗員と荷物の合計) は 65kg、路面は乾燥した平滑な路面、タイヤ空気圧は標準空気圧。

■寸法について